

令和2年度 地域連携事業報告書

地域教育実践研究センター



学校法人福原学園
九州女子大学・九州女子短期大学

目 次

第1章 大学における地域連携について

I. 大学が地域連携する意味	2
II. 組織と業務内容	3
1. 組織	
2. 業務内容	
3. 外部評価	
III. SDGsの推進について	4
1. SDGsとは	
2. 本学の取り組み	
IV. 令和2年度の地域連携事業実績一覧	5

第2章 令和2年度の地域連携事業

I. 芦屋町との包括的連携事業	7
1. スーパーキャラバン隊による模擬保育	
2. 芦屋町祖父母学級における公開講座	
II. 水巻町との包括的連携事業	10
1. 避難所レイアウト作成事業	
III. 北九州市との連携事業	14
1. 放課後児童クラブの指導員を対象とした公開講座	
IV. 折尾二三会との包括的連携事業	18
1. 九女わくわくパークの企画運営	
V. 味の素株式会社との包括的連携事業	20
1. 減塩レシピ開発事業	
VI. 不二製油株式会社との包括的連携事業	22
1. 大豆加工食品を活用した製品開発事業	
VII. 株式会社えん・コミュニケーションズとの包括的連携事業	24
1. 鯖および明太子を活用した製品開発事業	
VIII. インターンシップ推進事業	26
1. インターンシップの種類	
2. インターンシップ参加スケジュール	
3. 各インターンシップの実績	
IX. 学生ボランティア事業	30
X. その他の地域連携諸事業	30
1. 北九州市民カレッジにおける公開講座	
2. 大学オリジナルレトルトカレーの販売	
3. 近隣他大学との連携	

第3章 学外実習・介護等体験および教員免許状更新講習等

I. 令和2年度学外実習・介護等体験の実績	32
II. 教員免許状更新講習の受講者推移(平成21年度～令和2年度)	33
III. 令和3年度教員免許状更新講習の開設予定講座	33

参考資料

I. 地域教育実践研究センターの各種委員会構成員	34
II. 地域教育実践研究センターの運営委員会等年間実績	34
III. 地域教育実践研究センター外部評価委員会報告	35
IV. 協定先一覧	36
V. 地域教育事業一覧(平成27年度～令和元年度)	36
VI. 講師派遣実績一覧	37
VII. 行政の審議会等委員委嘱実績一覧	38

第1章 大学における地域連携について

I. 大学が地域連携する意味

本学は、「地域に根差した実践教育を展開する大学」として、これまで取り組んできた教育・研究を地域社会の発展に資するため、平成27年6月1日に地域教育実践研究センターを設置した。

地域教育実践研究センターでは、学部・学科、および教員個々が実施してきた地域との関わりについての実態調査や地域が抱える課題や要望等を把握のうえ、「学生の質保証の強化」、「大学の教育・研究機能の活用」および「地域社会との共生」の3本柱を軸として、地域連携事業の在り方を検討し、本学の地域貢献(型)による大学創りに取り組む。

学生の質保証の強化

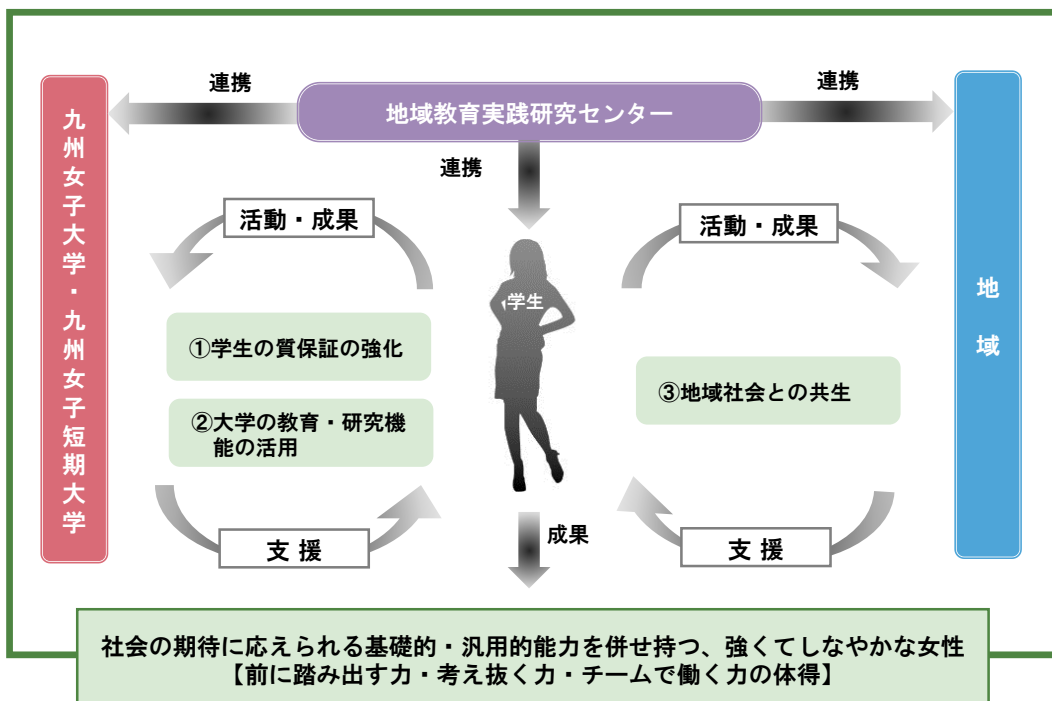
- ・地域課題(ニーズ)と大学資源(シーズ)を把握し、地域の課題を解決するため、学生ボランティアの育成を実践するとともに、学生の実学的教育を実践する。また、学生自身の研究テーマを設定して臨地研究を行うことにより、学生の研究論文に繋げていく。

大学の教育・研究機能の活用

- ・地域課題の現状調査を行い、データを分析し、これに対応する教育プログラムを作成する。また、教員による地域への出前型講座等を学生ボランティアと実践し、事業評価を行う。将来的には、「地(知)の拠点」として地域(自治体・企業等)と地域課題を解決する補助事業や共同研究の実施も視野に入れる。

地域社会との共生

- ・本学と自治体が組織的・実質的に協力し、地域課題と大学資源のマッチングにより、地域と大学が必要と考える取り組みを実践することで、地域との共生を実現させる。



II. 組織と業務内容

1. 組織

地域教育実践研究センターの適正な管理運営を図るため、「地域教育実践研究センター運営委員会」(以下、「運営委員会」)を設置している。運営委員会は、センター所長、センター副所長、教務部長、学生部長、事務局長、大学・短大の各学部等から学長が推薦する教育職員、その他学長が必要と認めた職員で組織している。組織的に事業に取り組むため、事業案件を運営委員会で審議・決定し、本学の評議会に審議事項を上申している。また、事務を所管するのは、センター所長、センター副所長、事務職員が行う。

2. 業務内容

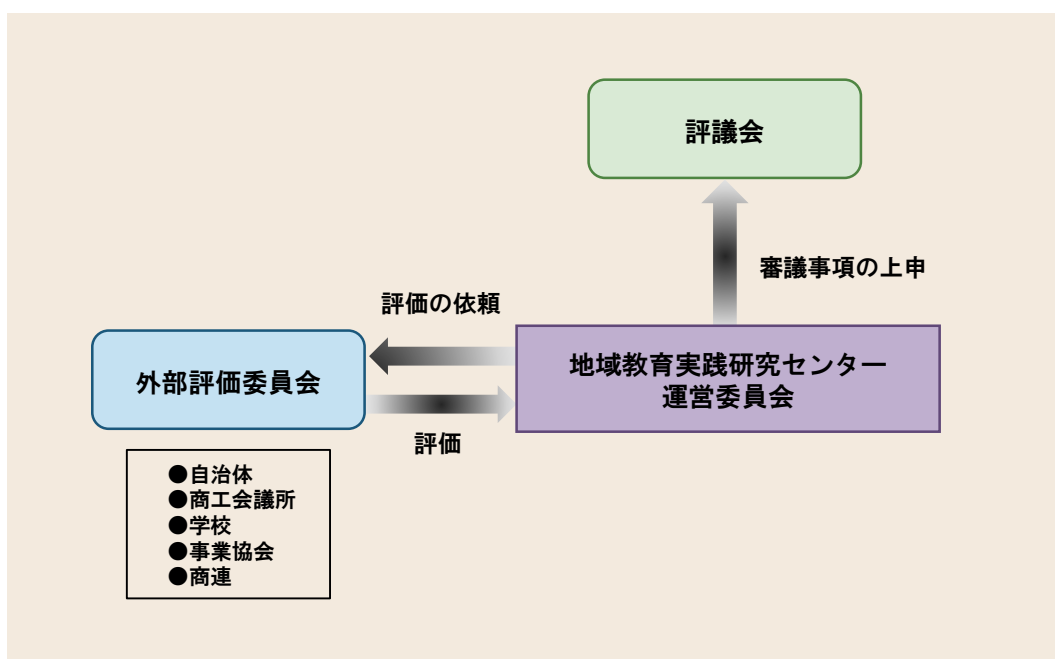
地域教育実践研究センターは、以下の業務を実践・研究するため、学科、個人単位で実施していた地域連携事業の一元化を図るとともに、外部からの依頼に関する窓口としての機能も有する。また、地域連携事業については、運営委員会の検討を踏まえ、各学部等から選出された運営委員により、学科会議等において検討内容の共有に努めることとしている。

地域教育実践研究センターの業務内容

- ①地域教育実践研究活動に関する学内情報の一元管理に関すること
- ②地域教育実践研究活動の学内外への広報ならびに情報の提供に関すること
- ③地域教育実践研究活動に関する対外的な窓口機能に関すること
- ④地域教育実践研究活動の教育実践プログラムおよび研究プロジェクトに関すること
- ⑤地域教育実践研究活動に関する連絡調整に関すること
- ⑥学校インターンシップおよび学校ボランティアに関すること
- ⑦学外実習および介護等体験に関すること
- ⑧教員免許状更新講習に関すること
- ⑨その他地域教育実践研究活動に関すること

3. 外部評価

地域教育実践研究センターの取り組みについて、学外有識者による評価を行うことで自己点検・評価活動に反映させ、客観性・公平性を担保するため、外部評価機関として「地域教育実践研究センター外部評価委員会」(以下、「外部評価委員会」)を設置している(P35参照)。



Ⅲ. SDGsの推進について

1. SDGsとは

SDGsとは、2015年の国連サミットで採択された、貧困や不平等、気候変動等の様々な社会課題や環境問題を根本的に解決し、より良い生活を送ることができる世界を目指す、世界共通の持続可能な開発目標である。SDGsは、17のゴールと169のターゲットから構成され、2016年から2030年の間、世界中の国々が目標達成に向け取り組んでいる。

本学が位置する北九州市は、内閣府から、「SDGs未来都市」(全国29自治体)、および「自治体SDGsモデル事業」(全国10事業)等に選定されていることから、SDGsを踏まえた取り組みを積極的に推進している。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



2. 本学の取り組み

本学は、地域に根差した実践教育を展開する大学として、大学の持つ教育・研究を地域へ還元し、一人でも多くの人々の生活に反映することでSDGsへ繋げる。自治体および企業等との連携事業を通じて、教育、地域課題の解決、栄養・健康に関するSDGsに取り組み、魅力あるまちづくりへ貢献する。



IV. 令和2年度の地域連携事業実績一覧

	事業	概要	SDGs
I	芦屋町との包括的連携事業	<p>1. スーパーキャラバン隊による模擬保育 芦屋町の保育所において、子ども健康学科の学生が実践型教育、および保育支援として、昨年度に引き続き、模擬保育を実施した。 ①芦屋保育園 (R2. 12. 10) ●派遣学生数：2人 ②若葉保育所 (R2. 12. 17) ●派遣学生数：3人</p> <p>2. 芦屋町祖父母学級における公開講座 芦屋町の高齢者が充実したセカンドライフを歩むきっかけづくり等のため、昨年度に引き続き、各小学校区の祖父母学級生を対象に本学教員(書道担当)による公開講座を実施した。 ■担当教員：古木誠彦 ①芦屋町中央公民館(R3. 3. 23) ●受講者数：14人 ②山鹿公民館(R3. 3. 25) ●受講者数：6人</p>	  
II	水巻町との包括的連携事業	<p>1. 避難所レイアウト作成事業【新規】 災害発生時における避難者の受け入れ体制を町として確立するため、人間生活学科のカリキュラムにおいて指定避難所のレイアウト作成に着手した。町の指定避難所17ヶ所を見学し、避難所にあるべき物品、避難所へ持参すべき物品、および簡易レイアウトを発表した。</p>	   
III	北九州市との連携事業	<p>1. 放課後児童クラブの指導員を対象とした公開講座 本学と北九州市(子ども家庭局)で放課後児童クラブの振興を図るため、昨年度に引き続き、本学教員によるクラブ指導員を対象とした公開講座(テーマ：子どもの姿のとらえとかわり方～コロナ禍での対応も含めて～)を実施した(R2. 11. 27)。 ■担当教員：蒲原路明 ●受講者数：84人</p>	
IV	折尾二三会との包括的連携事業	<p>1. 九女わくわくパークの企画運営【新規】 大学2年生の科目であるスキルアップ講座P(なでしこ I)において、学生が主体となり、児童を対象に授業で学習した内容(伝統文化「冠婚葬祭」に関するマナーやしきたり)を遊びや体験を通じて伝えるため、九女わくわくパークを開催した。また、職業体験も併せて企画し、折尾二三会の協力を得て、カメラマン体験を実施した。 ●参加者数：33名 (折尾西小13名/医生ヶ丘小1名/芦屋小2名/山鹿小8名/頃末小4名/未就学児5名)</p>	
V	味の素株式会社との包括的連携事業	<p>1. 減塩レシピ開発事業【新規】 味の素株式会社と連携し、栄養学科の学生が、幅広い生活者の健康促進を目的においしさを損なわずに減塩可能なレシピを開発した。また、10品目を掲載したリーフレットを作成し、スーパーマーケット等の店頭へ設置した。</p>	
VI	不二製油株式会社との包括的連携事業	<p>1. 大豆加工食品を活用した製品開発事業【新規】 不二製油株式会社と連携し、栄養学科の学生が、地域の方の体づくりや健康促進を目的に大豆加工食品の開発に着手し、試作品を開発した。</p>	
VII	株式会社えん・コミュニケーションズとの包括的連携事業	<p>1. 鯖および明太子を活用した製品開発事業【新規】 栄養学科の学生が、株式会社えん・コミュニケーションズが主力商品としている鯖や明太子を活用し、食品ロスを目的に新商品の開発に着手し、試作品を開発した。</p>	

事業	概要
Ⅷ インターンシップ推進事業	<p>1. 文系インターンシップ 北九州市内の学生に対して、職業意識の醸成や勉強意欲の向上、および市内企業への就職促進を図るため、市内の大学、短期大学、企業、北九州商工会議所が連携・協力し、文系学生を対象に就労体験の場を提供する事業である。 ●派遣学生数：【夏季】0人／【春季】延べ54人</p> <p>2. 課題解決型インターンシップ 北九州商工会議所が実施主体となり、北九州市内の学生に社会的基礎力を身につけさせるため、地域産業や企業等の課題を題材とした課題解決型インターンシップ事業である。 ●派遣学生数：3人</p> <p>3. 九州インターンシップ推進協議会 通常型インターンシップ 九州全体を見据えたインターンシップの推進と次代を担う若手の人材を育成するため、九州経済産業局や地元経済界、主要大学による産学官が協力して実施する事業である。 ●派遣学生数：【夏季】0人／【春季】4人</p> <p>4. 山口県インターンシップ推進協議会インターンシップ 山口県の経済・社会の活性化に貢献するため、県内の高等教育機関等、事業所、経済団体、行政機関が相互に連携・協力し、企業等へのインターンシップを通じて、高い職業意識の育成を推進する事業である。 ●派遣学生数：【夏季】0人／【春季】1人</p> <p>5. 北九州市インターンシップ 職業意識の向上、人材育成、および市政に対する理解を深めるため、市と協定を締結した教育機関の学生を対象とした市役所の公務に関する職業体験事業である。 ●派遣学生数：1人</p>
Ⅸ 学生ボランティア事業	<p>本学は、幼児教育者や学校教員等を目指す学生に現場経験を積ませるため、グリーンティーチャー等として、幼稚園・保育所、小学校、特別支援学校等に数多くの学生を派遣している。また、ボランティアとして、病院施設、図書館等にも学生を派遣している。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、学生の派遣を中止した。</p>
X その他の地域連携諸事業	<p>1. 北九州市民カレッジにおける公開講座 北九州市民カレッジにおいて、本学教員による国宝「源氏物語絵巻」で楽しむ『源氏物語』をテーマとした全5回の講座を開講した。また、「メディアと私たちのよりよい関係づくり」をテーマとした全7回の大学連携リレー講座における講座を開講した。</p> <p>2. 大学オリジナルレトルトカレーの販売 大学の教育や取り組みを広く地域へ伝えるため、株式会社はかた本舗と産学連携し、栄養学科の監修のもと、大学のオリジナルレトルトカレーを開発した。令和2年6月より販売を開始し、以下のとおり販路を広げている。 【WEB販売】 株式会社はかた本舗公式サイト／Amazon 【店舗販売】 学内売店／博多阪急／北九州空港等</p> <p>3. 近隣他大学との連携【新規】 北九州市内の大学等(本学、九州共立大学、北九州市立大学、九州国際大学、西南女学院大学等)によるキャリア連携会議が、本年度新たに設置された。本会議(WEB開催)において、定期的に新型コロナウイルス感染症に対する各大学の就職活動に関する対応、授業対応、企業への対応、インターンシップの対応、および就職内定状況等について情報交換した。</p>

第2章 令和2年度の地域連携事業

I. 芦屋町との包括的連携事業

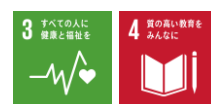
平成28年3月29日、実践教育の場で社会の期待に応えられる学生を育成するため、芦屋町と包括的地域連携に関する協定を締結した。芦屋町と協定を締結することで、双方の持つ資源を結集し、行政や地域が抱える課題の解決、および社会性や実践力を身につけた学生の育成等、双方のメリットを効果的かつ最大限に活かすとともに、連携事業を推進する。

令和2年度は、スーパーキャラバン隊による模擬保育、芦屋町祖父母学級における公開講座の2事業を中心に実施した。

1. スーパーキャラバン隊による模擬保育

(1) 概要・関連SDGs

キャラバン隊は、九州女子短期大学子ども健康学科の実践型教育として、幼稚園・保育所・施設・学校等において、模擬保育・模擬授業を展開する学生主体の活動である。この活動を通じて、学生の「創造性」「意欲」「研究心」「人間関係力」「問題解決能力」等、総合的な「人間力」の育成を目的としている。キャラバン隊には、原則、子ども健康学科の1年生全員が所属し、専門性と人間性を身につけるために必要なことは何かを考察している。また、希望する学生については、「スーパーキャラバン隊」として他の学生の模範となり、中心的に活動に取り組んでいる。昨年度に引き続き、芦屋町の保育所においてスーパーキャラバン隊の活動を実施した。



(2) 実施内容

場所	日程	内容	時間
芦屋保育園	令和2年12月10日(木)	①エプロンシアター ②紙芝居 ③パネルシアター	60分
若葉保育所	令和2年12月17日(木)	④保健指導 ⑤ダンス	

学生のコメント

①学んだこと	<ul style="list-style-type: none"> 紙芝居が全員見えているかを一度確認すること、話すときは口を大きく開けてゆっくり話すことが重要であると学びました。 子どもたちにどう伝わるか反応を確認し、その状況に応じた対応をすることを学びました。また、予定通りに進行できなかった場合や、間違った場合も自然な流れになるように工夫することを学びました。
②気づいたこと	<ul style="list-style-type: none"> 緊張して上手くいかないこともありましたが、子どもたちが楽しそうにしている様子を見ると成功したと思っています。 その場その状況を見て、臨機応変に対応できました。自然に流れるように皆で「つなぎ方」を考えました。
③今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 現場に出たときに、子どもたちのペースに合わせながら進めていこうと思いました。子どもたちの声に耳を傾けることを意識したいと思います。 今回は新型コロナウイルス感染症の対策のため、マスクを着用して行きました。マスクは表情がわかりづらいというデメリットがありますが、表情を表に出す練習にもなったため、今後活かしたいと思います。



第2章 令和2年度の地域連携事業

2. 芦屋町祖父母学級における公開講座

(1) 概要・関連SDGs

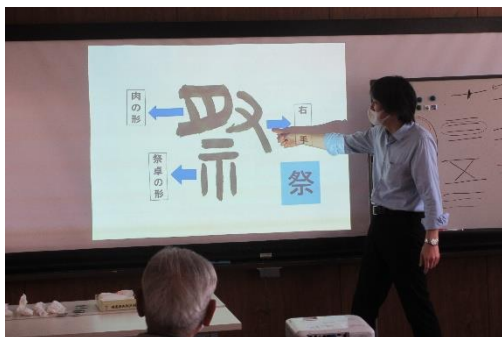
芦屋町祖父母学級は、芦屋小学校・芦屋東小学校・山鹿小学校の各校区で活動する大人向けの公民館講座の一つであり、豊富な知識と経験を持つ者同士が、楽しく学び、より深い社会性を身につけることを目的としている。その祖父母学級の高齢者を対象に学び直しの機会を提供するため、昨年度に引き続き、2ヶ所の公民館において本学教員による公開講座を実施した。



(2) 実施内容

場所	日程	時間	受講者数
芦屋町中央公民館	令和3年3月23日(火)	10:00～12:00	14人
山鹿公民館	令和3年3月25日(木)	10:00～12:00	6人

タイトル	漢字のはなし ～祭祀儀礼について～		
担当教員	九州女子大学 人間科学部人間発達学科(人間基礎学専攻) 准教授 古木誠彦		
目的	漢字の成り立ちから漢字の面白さを知る。		
概要	漢字の成り立ちを主に考察するが、併せて、我々の日常的慣習や中国哲学・思想についても考える講座内容である。		
準備	①プロジェクター、②パソコン、③スクリーン、④ホワイトボード		
講座の展開			
主な講座内容	留意点		
①「祭祀儀礼」に関連する漢字の解説	<ul style="list-style-type: none"> 「祭祀儀礼」に関する文字で、日常的に使用している漢字を取り上げ、クイズ形式を取り入れて、より平易な文言を用いて解説を行う。 漢字の成り立ちを知ることが目的ではあるが、日常的に漢字に興味を持ってもらうことが、最大の目的であることを受講者に認識させながら、講義を行う。 漢字ができた初義と、現在の我々が使用している意味の違い・変化にも言及し、漢字が時代とともに変化しながらも生き続けている、という感覚を養うことに重点も置いて話を進める。 本物の文物の取扱い、見方等も指導する。 		
②参考資料として、本物の甲骨文と貨幣(戦国時代・漢時代)を展示・解説する。			
③「祭祀儀礼」について字形の特徴を明確に示し、漢字構造のポイントや字訓・字音についても言及する。			
④漢字の成り立ちに関連して、哲学的観念や思想的観念についても簡潔に説明し、漢字の凄さの再発見を促す。			

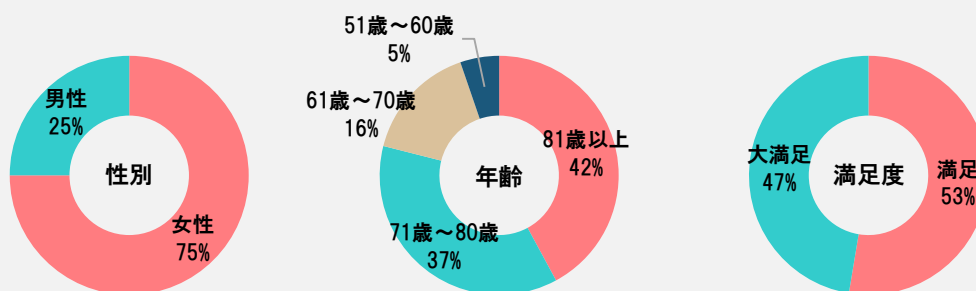


漢字に関する解説



字形の説明

■受講者データ n=19



受講者の声

- 漢字についての興味が出てきました。この文字はどんな意味があって作られたのだろうという視点から漢字を見るようになりました。
- 初めての漢字講座、難しく固い講座かと思っておりましたが、講師の先生のおだやかで優しく楽しい話にすっかり夢中になり、時間もあっという間に感じました。
- 3度目の講座になりますが、年に1回でも過去に聞いているお話が基礎になり、少し頭に残っているので、余計にお話が面白く、興味深く感じました。
- 字を書くこと自体が少なくなったため、意味を考えることがとても楽しかったです。
- 字形から文字を想像することが楽しかったです。
- 字の成り立ち等、大変勉強になります。頭の体操になりました。

担当教員の感想

受講生が年々、興味をもって受講されるため、その期待に応えるのが非常に嬉しいし楽しいです。また、講座終了後も、質問等で会話が弾み、私からの解答を受けるだけではなく、受講生がお互いに会話しながら考える姿を垣間見て、本講座が、受講生に知識だけを与えるものではなく、学び方も教授できていることを確認できました。大変嬉しく思います。

第2章 令和2年度の地域連携事業

II. 水巻町との包括的連携事業

平成31年4月17日、実践教育の場で社会の期待に応えられる学生を育成するため、水巻町と包括的地域連携に関する協定を締結した。水巻町と協定を締結することで、双方の持つ資源を結集し、行政や地域が抱える課題の解決、および社会性や実践力を身につけた学生の育成等、双方のメリットを効果的かつ最大限に活かすとともに、連携事業を推進する。水巻町は、町民の防災意識の向上を課題としているため、防災に係る事業を本学と今まで連携してきた。

令和2年度は、町の防災体制の整備と町民のさらなる防災意識の向上を図るため、町の指定避難所のレイアウト作成事業に取り組んだ。

1. 避難所レイアウト作成事業

(1) 概要・関連SDGs

災害発生時における避難者の受け入れ体制を町として確立するため、人間生活学科のカリキュラムにおいて指定避難所のレイアウト作成に着手した。町の指定避難所17ヶ所を見学し、避難所に持っていくべき物品、避難所にあるべき物品、簡易レイアウトを発表した。



(2) 実施内容

①水巻町によるWEB講義

水巻町役場の職員が学生に対し、「水巻町の防災について考える」をテーマにWEB講義を実施した(令和2年6月15日実施)。講義内容は、災害の基礎的な知識として平成30年7月豪雨の町内の様子を紹介するとともに、市町村が防災・減災に取り組む意義や、近年の水巻町の取り組みを紹介した。そのうえで、町の指定避難所が抱える課題として、長期的に避難所を開設・運営した経験が無いこと、および職員のマンパワーが十分でないこと等を提示した。



②指定避難所の視察

令和2年7月28日から8月3日の間で、町の指定避難所17ヶ所を視察し、以下のとおり各避難所の課題とレイアウトの構想をまとめた。

	避難所	課題	レイアウト構想
1	中央公民館	<ul style="list-style-type: none"> 床が固いため、マット等が必要 温度調節(冷暖房管理) どこに何があるか分かりにくい コンセントが少ないため、延長コードが多数必要 大ホールは声が響きやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い年代に分かりやすいもの
2	高齢者福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> 床が固いため、マット等が必要 温度調節(冷暖房管理) 複数の小部屋があるため使い方(人数等)の決定 廊下が狭いため、通路を半分に分け、右側通行等の決定 トイレの増設が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 各部屋を有効に使用
3	水巻町武道館	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者のために腰かけて待機する場所が必要 夏は換気のためにも扇風機、冬は暖かい飲み物等 人目を気にせず過ごせる場所 着替えるスペース 	<ul style="list-style-type: none"> ステージは物置き 椅子は、足腰の悪い人用 区切りが必要
4	障害者福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> トイレの清潔を保つアルコールや掃除道具が必要 狭いため、隣同士の区切りが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 畳の部屋は高齢者、乳幼児がいる家族用
5	猪熊小学校	<ul style="list-style-type: none"> 体育館の場所がわかりにくいいため、目印が必要 日差しが強いため、カーテンが必要 トイレの清潔を保つアルコールや掃除道具が必要 床が固いため、マット等が必要 プライバシーを確保する場所の区切りが必要 窓から川が見えるため怖いと感じる。できれば他の避難所を開設する方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> トイレ付近は高齢者等動きづらい人 体調不良者専用スペース

	避難所	課題	レイアウト構想
6	水巻町民体育館	<ul style="list-style-type: none"> 床が固いため、マット等が必要 体育館の場所がわかりにくい、目印が必要 日差しが強いため、カーテンが必要 トイレの清潔を保つアルコールや掃除道具が必要 プライバシーを確保する場所の区切りが必要 	
7	杵小学校	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な点検・掃除が必要 換気がしにくい、サーキュレーターが必要 コンセントが少ないため、延長コードが多数必要 	
8	水巻町第二保育所	<ul style="list-style-type: none"> 子ども用トイレが多かったため、避難対象は子どもが好ましい 最低限の毛布等はあるが数に限りがある。 	
9	頃末小学校	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な点検・掃除が必要 換気がしにくい、サーキュレーターが必要 コンセントが少ないため、延長コードが多数必要 	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場が広い、車中泊も視野に入れる。
10	水巻中学校	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な点検・掃除が必要 換気がしにくい、サーキュレーターが必要 コンセントが少ないため、延長コードが多数必要 	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場が広い、車中泊も視野に入れる。
11	水巻第一保育所	<ul style="list-style-type: none"> 大人用トイレが一箇所しかないため、増やす必要がある。 部屋数が少ないため、人数に限りがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 子連れが過ごしやすい
12	水巻町体育センター	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な点検・掃除が必要 プライバシーを確保する場所の区切りが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 快適を求める
13	いきいきほーる	<ul style="list-style-type: none"> 床が固いため、マット等が必要 温度調節（冷暖房管理） どこに何があるか分かりにくい コンセントが少ないため、延長コードが多数必要 大ホールは声が響きやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者や子どもが安心・快適に過ごせる。
14	伊左座小学校	<ul style="list-style-type: none"> 入口にスロープが無い、避難所開設時のみだけでも簡易的なスロープが必要 温度調節（冷暖房管理） トイレの定期的な点検・掃除が必要 	
15	水巻南中学校	<ul style="list-style-type: none"> 入口にスロープが無い、避難所開設時のみだけでも簡易的なスロープが必要 トイレの定期的な点検・掃除が必要、校舎のトイレの含めた方がよい。 プライバシーを確保する場所の区切りが必要 	
16	南部公民館	<ul style="list-style-type: none"> 部屋は狭いが、大ホールもあるため、使い分けが必要 大ホールの冷暖房設備が必要 トイレの定期的な点検・掃除が必要 コンセントが少ないため、延長コードが多数必要 大ホールは床が固いため、マット等が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 狭い部屋を妊婦、高齢者の方等に分けて使用する。
17	吉田小学校	<ul style="list-style-type: none"> 入口が狭いことから混雑する可能性がある。別の入口を解放する必要がある。 	



第2章 令和2年度の地域連携事業

③避難所にあるべき物品および避難所へ持参すべき物品の検討

指定避難所17ヶ所を視察した結果から、以下のとおり避難所にあるべき物品、および避難所へ持参すべき物品をまとめた。

避難所にあるべき物品

飲料水、食料品／トイレットペーパー／簡易トイレ(必要に応じて)／体育館シート(通路の確保用)／パーティション／掲示板／椅子(足腰の悪い人用)／ストーブ、扇風機／発電機／ブランケット、アルミシート、毛布、タオル／マスク、消毒液／避難所の区画整理用用具(軍手、ガムテープ、養生テープ、ペン類)／懐中電灯／ビニール袋、ラップ、ポット、救急用品／使い捨てカイロ(冬場)

避難所へ持参すべき物品

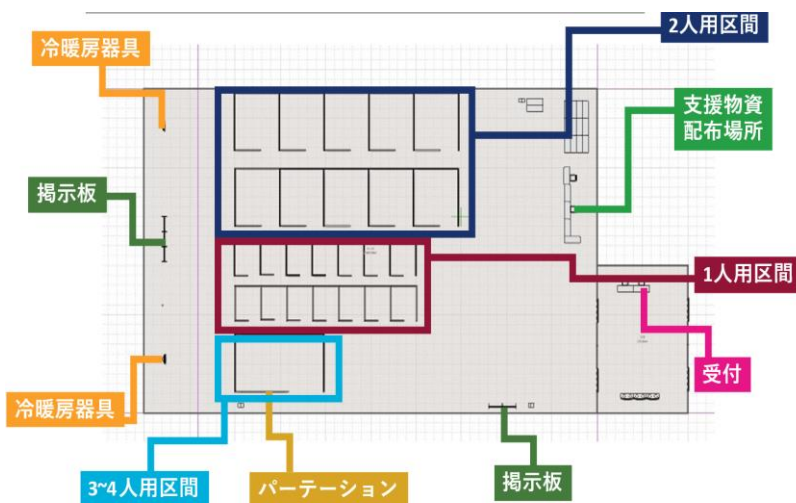
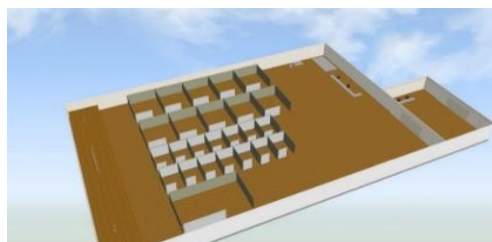
飲料水、食料品／弁当箱(空)、ラップ／マスク、消毒液／耳栓、アイマスク／懐中電灯、予備電池、携帯電話、充電器／貴重品(預金通帳、印鑑、現金、健康保険証等)／救急用品(ばんそうこう、包帯、消毒液、常備薬等)／ウェットティッシュ、ティッシュ、衛生用品、洗面用具／防寒着／高齢者用(おむつ、杖)／乳幼児用(ミルク、紙おむつ、哺乳瓶等)／ペット用(リード、餌、トイレシート、ケージ)

④レイアウト案の作成

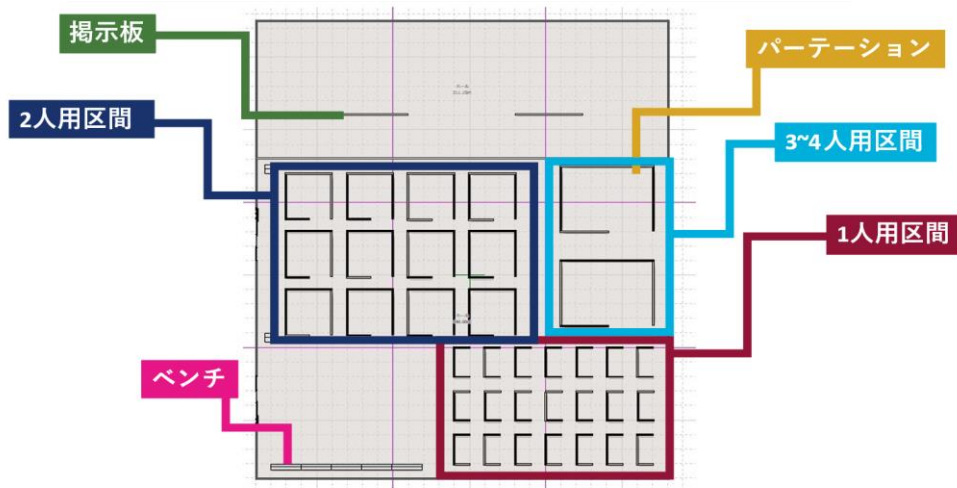
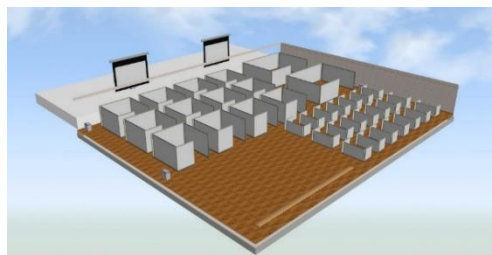
猪熊小学校(体育館)、および中央公民館(大ホール・和室)のレイアウト案を以下の点を踏まえて作成した。

- ・先ずは通路を確保し、その後にスペースを考える。
- ・年齢によって居住スペースを変える。
- ・居住スペースの基本形：一人当たり1.5×2.5mとし、人数によってパーティションを変える。
- ・トイレを綺麗に使うことに注意を払う。もし、トイレが使えない場合は、簡易トイレ、ビニール等で対策する。
- ・掲示板は入口とステージ上とする。
- ・ごみ箱は入口と支援物資配布場所付近に設置する。
- ・扇風機は入口付近に1つ、ステージ上に2つ設置する。
- ・テントゾーン(フリーゾーン)は、テントを立てたり、会話を楽しむ場所としても活用する。

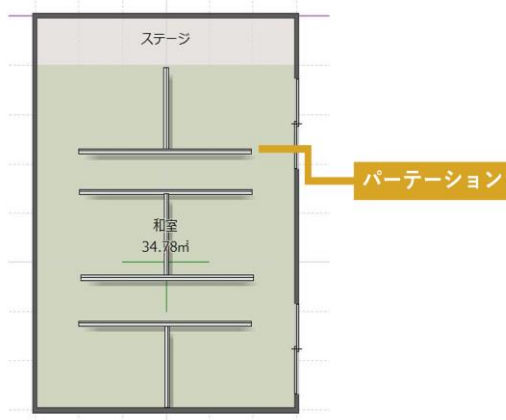
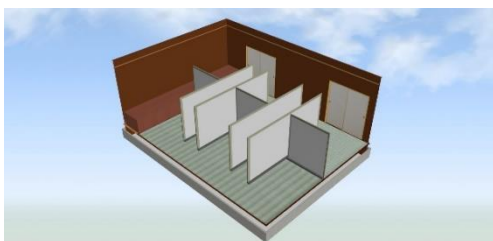
【猪熊小学校(体育館)】



【中央公民館(大ホール)】



【中央公民館(和室21畳)】



(3) 成果発表

令和2年12月21日、本事業について学生が発表した。本発表には、水巻町役場の職員の参加もあり、成果を報告することができた。発表内容は、3日間の避難を想定した避難所が準備すべき物品、避難者が持参する物品を中心に発表した。

また、避難所のレイアウト案については、水巻町役場へ提出し、次年度の活動へ繋げていくこととした。

水巻町との連携事業を通じて、学生の研究へ還元することができ、地域教育実践研究センターの基本方針である「学生の質保証の強化」へ繋げることができた。



第2章 令和2年度の地域連携事業

Ⅲ. 北九州市との連携事業

1. 放課後児童クラブの指導員を対象とした公開講座

(1) 概要・関連SDGs

平成25年9月1日に北九州市と本学で「北九州市放課後児童クラブの振興に関する連携」について協定を締結した。平成27年度連携事業開始にあたっては、放課後児童クラブの要望を把握するため、児童クラブの指導員を対象にアンケート調査を行った。このアンケート調査の結果から、4領域(①生活、②遊び、③活動・行事、④衛生等)について公開講座の要望があった。

平成27年度から令和元年度は、これらの要望に基づいて以下のとおり公開講座を実施した。令和2年度については、大規模型公開講座を1講座実施した。



(2) 大規模型公開講座の実績

講座名	受講者数	担当教員	実施年度
子どもの姿のとらえとかかわり方 ～コロナ禍での対応も含めて～	市内指導員84人	人間発達学科 蒲原 路明	R2年度
応急手当の基本と食物アレルギー対応	市内指導員88人	人間発達学科 春高 裕美	R1年度
明日からの支援に活かそう健康観察と応急処置	市内指導員92人	人間発達学科 春高 裕美	H30年度
明日からの支援に活かそう健康観察と応急処置	市内指導員94人	人間発達学科 春高 裕美	H29年度
子どもの発達と児童期の関わり方	市内指導員496人	人間発達学科 蒲原 路明	H29年度

(3) 通常型公開講座の実績

【領域①：生活】

内容	要望	講座名・実施クラブ	担当教員	実施年度
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> 高学年の発達に応じた独自の生活指導の研修があれば良い。 児童と指導員との対応の仕方。例えば、問題児との関わり方等、具体策について勉強してみたいと思う。 	子どもの発達特性を活かした生活集団づくり 萩原学童保育クラブ 受講者数:指導員12人	人間発達学科 神代 明 藤川 一俊	H27年度
発達障害	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害やボーダーラインの子どもたちに関する研修があれば参加したい。 発達障害を持った児童に対する指導方法、落ちつきのない児童(グレーゾーン)の対応、声かけ等 	発達障害の子どもの特性と基本的理解 けやき児童クラブ 受講者数:指導員13人	人間発達学科 石黒 栄亀	H28年度
保護者クレーム対応	<ul style="list-style-type: none"> 児童同士のトラブルにおける保護者からのクレーム対応 	※北九州市が別途研修実施済		

【領域②：遊び】

内容	要望	講座名・実施クラブ	担当教員	実施年度
遊び(レク)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの興味をひく遊びや低学年用、高学年用等、年齢に合った遊び 遊びのスペースが狭いため、限られた環境に適した遊びの指導、小学校高学年児童向けのもの 	高学年における集団遊び 医学生児童クラブ 受講者数:指導員7人/児童7人	人間発達学科 藤川 一俊	H27年度

【領域③：活動・行事】

内容	要望	講座名・実施クラブ	担当教員	実施年度
ダンス・手遊び	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み等にいくつかのクラスに分けて、ダンス、制作、その他希望する活動が一齐にできればとてもありがたい。 ダンス、演奏等の活動はできていないと感じているため、楽しんで体を動かす活動を教えてあげて欲しい。 	体を動かすことを楽しもう！ ～リズムにのって楽しく～ 折尾児童館内放課後児童クラブ 受講者数:指導員11人/児童22人	人間発達学科 青山 優子	H27年度
		リズム表現を通した子どもの心と体への働きかけ 曽根東校区放課後児童クラブ 受講者数:指導員15人	子ども健康学科 津山 美紀	H28年度
工作・美術	<ul style="list-style-type: none"> 全学年が満足する夏休みの工作で毎年悩んでいる。 科学的な実験や、動くおもちゃの制作等、子どもの興味、好奇心をそそるような体験行事があると良い。 	制作体験(工作・美術)～実用的なものから遊べる制作物まで～ 西小倉なかよし学童クラブ 受講者数:指導員14人	子ども健康学科 富永 剛	H28年度
活動	<ul style="list-style-type: none"> 職員の啓もう もっと1～6年生が気軽にできたり、夏に取り組める例を知りたい。 	いろんな学年の子どもたちを楽しく遊ばせよう 星の子・木屋瀬放課後児童クラブ 受講者数:指導員23人	人間発達学科 萬徳 紀之	H29年度

【領域④：衛生等】

内容	要望	講座名・実施クラブ	担当教員	実施年度
応急処置	<ul style="list-style-type: none"> ハチにさされた、大量の鼻血、けいれん等の応急処置の仕方。 インフルエンザ等で隔離が困難であるため、このようなケースの対応について。 	やってみよう！ 緊急対応と応急処置 鴨生田放課後児童クラブ 受講者数:指導員9人	人間発達学科 春高 裕美	H27年度
		応急処置～実際にやってみよう、緊急対応と応急処置～ 松ヶ江北校区放課後児童クラブ 受講者数:指導員13人	人間発達学科 春高 裕美	H28年度
おやつ	<ul style="list-style-type: none"> 児童に多い疾病、食物アレルギーに関する対処方法等 簡単で時間と手間をかけずにできる手作りおやつのレシピ紹介 	※北九州市が別途研修実施済		
アレルギー	<ul style="list-style-type: none"> アナフィラキシーショックの対応(エピベン使用)の研修 アレルギーの「完全除去」「製造ラインから除く」等、基礎的な知識とおやつの工夫を知りたい。 	応急処置～実際にやってみよう、緊急対応と応急処置～ 松ヶ江北校区放課後児童クラブ 受講者数:指導員13人	人間発達学科 春高 裕美	H28年度
不審者対応	<ul style="list-style-type: none"> 不審者が侵入した際の子どもの誘導、カラーボールを準備して投げる等 女性でも子どもたちを守る護身術等。他に救急対応、不審者対応等 	不審者対応と護身術 永犬丸放課後児童クラブ 受講者数:指導員8人	人間発達学科 神代 明	H29年度
			子ども健康学科 松崎 守利	

(4) 公開講座の実施内容

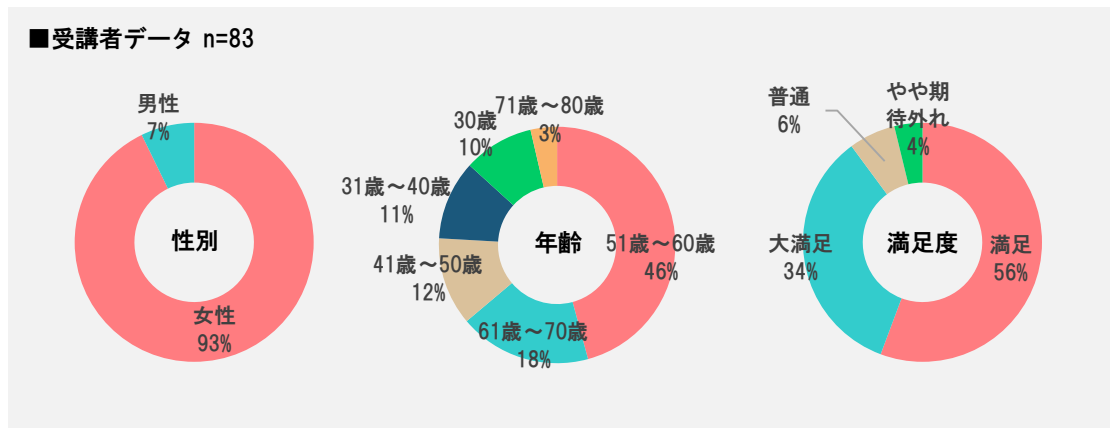
タイトル	子どもの姿のとらえとかかわり方～コロナ禍での対応も含めて～
担当教員	九州女子大学 人間科学部人間発達学科(人間発達専攻) 特任教授 蒲原路明
実施日時	令和2年11月27日(金) 10:00～12:00
実施場所	北九州国際会議場 メインホール
受講者数	指導員84人
目的	放課後児童クラブにおいて、子どもが見せる姿をどうとらえ、どう声をかけていけばよいのか等、コロナ禍でのコミュニケーションの大切さを踏まえ、実態把握や児童理解を通しての子どもへの有効なかかわり方、支援の方法等を学ぶ。
概要	まず、教職経験を通した子どもの姿のとらえ方について説明し、子どもを知ること、理解することの大切さを説明する。次に、「乳幼児期・児童期における心身の発達の特徴」から、子どもの自己肯定感を育むことの重要性を説明し、子どもへのかかわり方を考える。最後に、子どもへのかかわり方を紹介し、子どもへの接し方、かかわり方の具体的方法について説明する。
準備	①配付資料、②PC、③スクリーン
講座の展開	
主な講座内容	留意点
1. はじめに (1) 教職経験を通した子どもの姿のとらえ方の変化について (2) 子どもの姿のとらえ方との出会い (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介を兼ね、公立小学校に37年間務めた経験から、自身の子どものとらえ方が変化したことを話し、問題提起をする。 ・自身の子どもの見方やかかわり方に大きく影響した書物や研修等について紹介する。
2. 子どもを知る(子どものとらえ方) (1) 平成26年の調査 (2) 自己肯定感を育てることに関して (3) 甘え(依存)と自立(反抗) (4) 「甘えさせる」と「甘やかす」 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生を対象にした調査を紹介し、日本の子どもは、自己肯定感が高いとはいえないことを説明する。 ・0歳から1歳までの子どもの心身の発達の特徴を紹介し、「泣く」ことでしか表現できない赤ちゃんへのかかわり方を説明する。 ・乳幼児期は、甘えと自立の繰り返りで成長することを説明する。 ・「甘えさせる」ことは成長に重要。しかし、「甘やかす」は悪影響。その違いは、具体的には難しい。
3. 子どもとのかかわり方 (1) 大人の子どものかかわり方 (2) 生活科の実践「子どもの気付きの見取りと価値付けの工夫」 (3) 目的をもたせる (4) 体験や活動の工夫 (5) グループづくり、リーダーの育成 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> ・大人の言葉で子どもが傷ついていないか、事例を挙げて説明する。「認める」「ほめる」の評価で子どもが変わることを話す。 ・生活科の実践で、子どもの活動や気づきを認めたり励ましたりする教師の言葉かけの研究成果を紹介する。 ・目的をもたせることで、子どもは主体的に活動することを話す。 ・季節の行事、伝統行事、学校行事との関連等を考え、子どもが活躍する活動を年間行事に位置づけることを説明する。 ・小集団での生活、活動を通して、リーダーを決め、生活の中で子どもを育成する。 <p>【まとめ】 子どもを知る。子どもの自己肯定感を育てる。大人の関わりを自覚する。認める、ほめる、励ます等の声かけが重要。</p>



講話(子どもを知る)



講和(子どもとのかかわり方)



受講者の声

- ・今コロナの問題もあり、多くの活動ができづらくなっています。本講座を受講して改めて子どもたちとのかかわり方、活動の仕方を考え直すことができました。具体的な声かけの仕方等が学べて良かったです。
- ・社会や環境が変化する中、子どもの対応は難しいもので大変だと日々感じていました。しかし、今一度子どもたちをよく見つめ直し、関わり合い、いかに子どもたちに自己肯定感を持たせながら育てて行けるように考え直すチャンスをいただけたと思います。
- ・子どもたちとの接し方について分かりやすく、どのように言葉かけをすれば良いか勉強になりました。
- ・浦原先生の実践に基づくお話で具体的な子どもとらえ方、かかわり方がよく分かりました。実際の教員生活の中での気づきを伝えて下さり、自分自身の気づきに繋がりました。

担当教員の感想

平成29年11月の講話以来、2回目の実施でした。新型コロナウイルス感染防止対策を十分に行った中での取り組みで、参加者約84名の皆さんが、熱心に話に耳を傾けてくださり、子どもたちへの指導に対する情熱をひしひしと感じました。今回は、「子どもの姿のとらえとかかわり方～コロナ禍での対応も含めて～」という演題で、指導者としての大人の心構え、子どもとらえ方、自己肯定感を育むことの重要性等、公立小学校に37年間務めた経験から話しをさせていただきました。発達や成長の様子が著しく異なる小学校1年生から6年生までの異学年の指導を行うことは、決して簡単なことではないと思いますが、無限の可能性を秘めている子どもたちの健やかな成長を願って、今後もさらにご活躍されることを祈念しております。

IV. 折尾二三会との包括的連携事業

本学と折尾二三会*は、令和元年度に人間生活学科のカリキュラムにおいて、子ども職業体験イベント「おりちょこランド」の企画運営に共同で取り組んだ(令和元年10月22日開催)。本事業を通じて、学生と社会人が接することで、学生の社会人理解へ繋がったとともに、イベント企画の立案、段取りや進行等を実践的に経験し、社会人基礎力の養成へ繋がった。また、折尾二三会は様々な業種の企業で構成されていることから、学生は実践的に業界研究の視点や考えを深める機会となった。この事業実績を踏まえ、大学と企業が産学連携することで、折尾地区の活性化、学生の社会人基礎力の養成、および地元企業への理解促進を図るため、令和2年8月3日に本学と折尾二三会で包括的連携協定を締結した。

令和2年度は、大学の敷地内で地元の子どもたちを対象としたイベントの企画運営に取り組んだ。

※折尾二三会とは、1984年に誕生し、折尾地区を中心とした若手経営者による異業種交流団体である。

1. 九女わくわくパークの企画運営

(1) 概要・関連SDGs

大学2年生の総合共通科目であるスキルアップ講座P(なでしこ I)において、実践的に社会人基礎力「前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力」を養成するため、地元の子どもたちを対象とした「九女わくわくパーク」を企画のうえ開催し、近隣の小学校の児童等33名が参加した(令和2年11月29日開催)。九女わくわくパークの内容は、折尾二三会と共同した職業体験、および日本の伝統文化を学ぶ「遊び」で構成した。



(2) 実施内容

① 学習

スキルアップ講座P(なでしこ I)において、社会人基礎力となるマナーの基本と課題解決学習で学びを深めた。また、課題解決学習では、人間生活学科の3年生がファシリテーターとして2年生をサポートし、学科と学年を超えた授業を展開した。



課題解決学習



マナー教育

② 発想・企画

職業体験については、子どもたちが職業や働くことを考えるきっかけとなる体験を企画するため、折尾二三会の会員企業28社の企業研究を行った。その結果、有限会社大伏写真場と連携することを前提にカメラマン体験を企画し、同社の協力を得るため、企画書を持参のうえ企画の趣旨、体験手順、および協力内容等を説明した。

日本の伝統文化を学ぶ「遊び」については、参加した子どもたちが帰宅して「楽しかったよ!」と報告したくなる「遊び」を提供するため、学習した「冠婚葬祭」の内容を深め、発想を膨らませて様々な「遊び」を企画した。



企業の前でプレゼンテーションする学生



発想から企画立案

③実践(九女わくわくパークの開催)

「九女わくわくパーク」は、学生が学んだ冠婚葬祭をテーマとした遊びのブースを4ブース、職業体験ブースを1ブースの計5ブースで展開した。また、コロナ禍における開催となるため、参加人数を限定し、本学と連携している地元の自治体や小学校に呼びかけた。当日は、33名の子どもたちが参加し、チームで協力して問題にチャレンジしていく姿や、集中して黙々と製作する子どもたちの姿が見られた。

テーマ	実施内容
冠	【すごろくブース】生まれてから成人式までの「冠」の行事を学ぼう
婚	【結婚式ブース】結婚式に参列する服装やテーブルマナーを学ぼう
葬	【数珠づくりブース】お葬式での数珠の使い方やマナーを学ぼう
祭	【スタンプラリーブース】日本の年中行事を楽しく学ぼう
仕事	【カメラマン体験ブース】お正月に関する知識を学びながらカメラマンを体験してみよう



冠：すごろくブース



婚：結婚式ブース



葬：数珠づくりブース



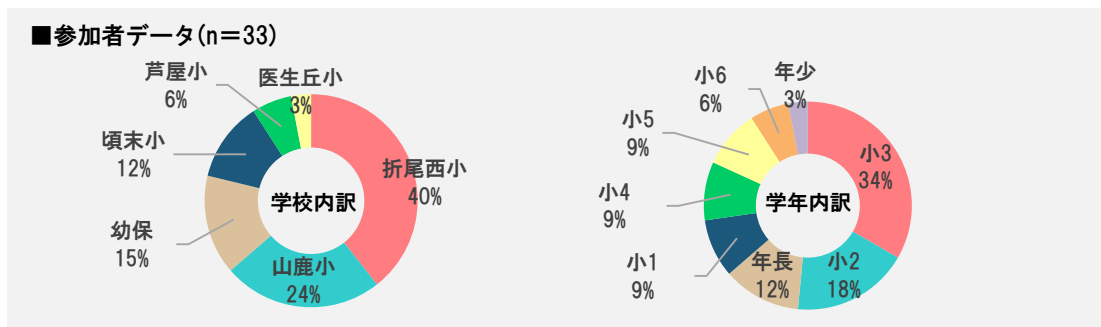
祭：スタンプラリーブース



仕事：カメラマン体験ブース



その他遊び



④発表・評価・振り返り

課題解決型学習では、学習の目的への理解や成果への客観的な評価も重要となる。企画の意図を当日のイベントに反映できたか、準備は足りていたか、目的は達成できたか等、当日までの歩みを振り返るとともに、授業で学んだことをチームごとに発表した。

(3) 成果

本事業を通じて、折尾二三会と連携した学生は、企業研究による地元企業の幅広い理解、および企業に対するプレゼンテーション等、社会人として必要なスキルを実践的に学ぶことができた。また、冠婚葬祭の「遊び」を企画した学生は、自分自身が学んだことを「九女わくわくパーク」を通じて、子どもたちに教えることで学習を定着させることができた。さらに、ファシリテーターとして参加した人間生活学科の3年生は、2年生の意見整理、合意点のまとめ等、様々なサポートを行ったことにより、把握力、複眼力、統率力等の能力を向上することができた。全体として、本事業に携わった学生は、「①学習」「②発想・企画」「③実践」「④発表・評価・振り返り」の4段階で学ぶことで、社会人基礎力「前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力」を身につけることができた。

V. 味の素株式会社との包括的連携事業

味の素株式会社では、社会課題の解決と経済的価値の創出を同時に実現するための取り組みを「ASV (Ajinomoto group Shared Value)」と名付けて各エリアで推進している。また、SDGsの目標の1つでもある「全ての人に健康と福祉を」において健康を実現する手段の一つとして「減塩」には特に力を入れて取り組んでいる。

九州支社は主に、九州エリアにおける商品の販売や、食と健康に関する広報普及を担っている部門であり、販売促進や、減塩の普及啓発に活用するための媒体も作成している。さらに、商品を使った減塩に加えて、基本味のひとつでもある「うま味」を生かした減塩を推し進めるため、本学の栄養学科と連携する運びとなった。

本学と味の素株式会社九州支社は、教育、研究、人材交流、社会貢献等の分野において協力のもと、地域の発展と人材の育成に寄与するため、令和2年3月3日に包括的連携協定を締結し、減塩レシピの開発に取り組んだ。

1. 減塩レシピ開発事業

(1) 概要・関連SDGs

九州全域の幅広い生活者の健康意識の向上を促すため、栄養学科の学生が、家庭でも簡単に取り入れやすく、おいしさを損なわずに減塩可能なレシピを開発した。また開発されたレシピの中から、10品のレシピを掲載したリーフレットを作成し、スーパーマーケット等の店頭へ設置した。



(2) 実施内容

①コンセプトの設定

塩分の過剰摂取は血圧を上げる大きな要因になるとともに、癌や脳梗塞・腎臓病、心筋梗塞のリスクを高める。これらの課題を解決するため、手軽さ、簡単さ、および九州らしさをキーワードに塩分基準を主菜・副菜・汁物を組み合わせたときの食塩相当量が2.5g未満を目標にレシピを開発する。

調理時間	15分以内
手軽さ	少ない手順、少ない材料、簡単な調理器具で作れる、作るイメージをし易い
塩分基準	主菜1.0g前後、副菜0.5g前後、汁物0.8g前後 主菜・副菜・汁物を組み合わせたとき、食塩相当量が2.5g未満（福岡県ヘルシーメニュー指針に沿う）
使用商品	味の素®、やさしお®、お塩控えめ・ほんだし®、丸鶏がらスープ(塩分ひかえめ) 他

②研究期間

STEP1	STEP2	STEP3
<p>5月～7月 【献立の作成・試作】</p> <p>学生が自粛期間中に一人二品の減塩食の献立を考え、家で試作した。 大学での試作は7月から着手した。</p>	<p>7月～8月 【献立の試作・レシピ作成】</p> <p>教員による複数回の試食と調整を重ね、味を保ちつつも塩分量の少ない減塩食25品が完成した。</p>	<p>9月～11月 【試食会・リーフレット完成】</p> <p>味の素株式会社の社員に試食してもらうため、試食会を開催した。試食と検証の結果、最終的に10品のレシピが採用され、リーフレットに掲載された。</p>



減塩食の試作品



試食会における学生によるレシピ説明



開発に携わった学生と味の素㈱の社員



完成したリーフレット

リーフレット掲載レシピ	塩分量(1人分)
①肉巻き南蛮タルタル添え	1.1 g
②豚肉のトマトジンジャーソテー	0.9 g
③じゃがピーチキンバターコンソメ味	0.8 g
④カラフル野菜のオイマヨサラダ丼	1.3 g
⑤レンジで簡単♪くずし豆腐丼	0.7 g
⑥とろ玉彩りあんかけ丼	1.4 g
⑦トマトときのこのクリームリゾット風	0.9 g
⑧焦がしみそ豚焼きちゃんぽん	1.2 g
⑨豚バラきゅうりのさっと炒め	0.7 g
⑩ピーラーにんじんのホットサラダ	0.4 g

③リーフレットの周知

完成したリーフレットは、九州全域のスーパーマーケット等の定番売場に設置するとともに、味の素株式会社のレシピホームページやSNSに掲載されている。学生が開発した減塩レシピが、様々な媒体を通じて多くの方に幅広く伝わり、地域全体に貢献できる取り組みとなった。

(3) 成果発表

令和2年12月19日、本事業について学生が卒業研究として発表した。発表内容は、「美味しい減塩食に特化した家庭で活用できるパンフレットの開発」という題目で、減塩基準の設定、レシピ開発の過程、およびリーフレットの概要等を発表した。味の素株式会社との連携事業を学生の卒業研究へ還元することができ、地域教育実践研究センターの基本方針である「学生の質保証の強化」へ繋げることができた。



VI. 不二製油株式会社との包括的連携事業

不二製油株式会社では、地域の方の体づくりや健康促進を目的に大豆を使用した製品の開発等に取り組んでいる。大豆は、健康維持・増進に効果的であると考えられる研究が数多く発表され、大豆加工食品の日常的摂取を通して健康寿命を延ばそうという動きが、世界規模で見られている。

本学と不二製油株式会社は、教育、研究、メニュー開発に伴う技術振興、製品スペックのアドバイス、人材交流等の分野において協力のもと、地域の発展と人材の育成に寄与するため、令和2年4月1日に包括的連携協定を締結し、大豆加工食品の開発に取り組んだ。

1. 大豆加工食品を活用した製品開発事業

(1) 概要・関連SDGs

大豆製品を日常生活に簡単に取り入れることを目的に、そのままでも摂取可能な「大豆パフ」の共同開発を行った。本事業では、大豆パフの課題点について検討のうえ改善案を提案した。



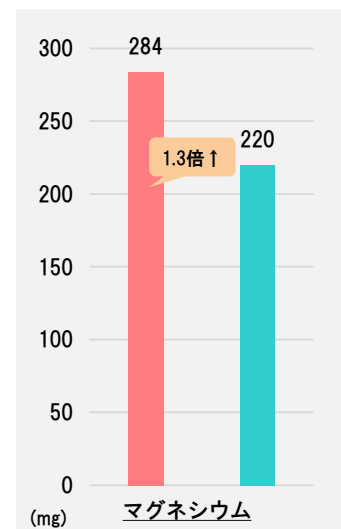
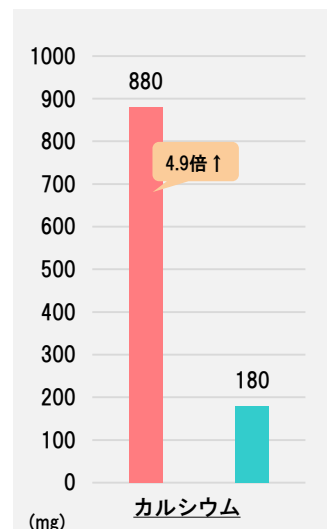
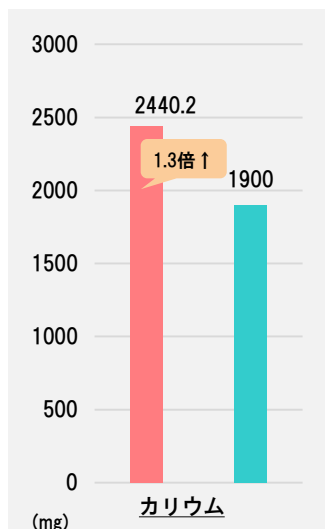
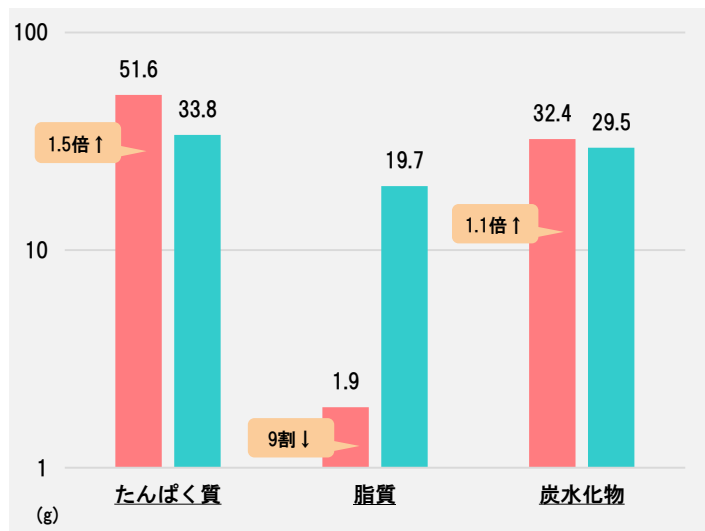
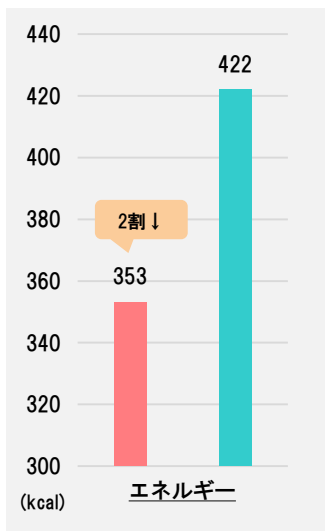
(2) 実施内容

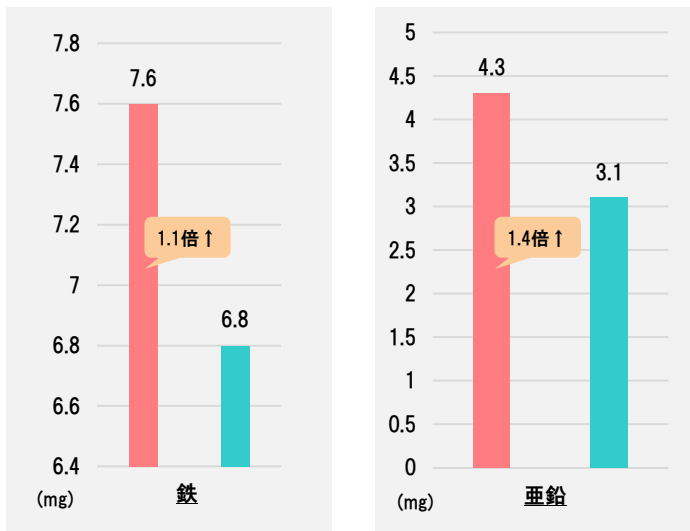
① 栄養成分の比較(100g当たり的大豆パフと乾燥大豆)

大豆パフの栄養素量について、乾燥大豆と比較した結果、大豆パフは以下のとおり、低エネルギー、低脂質、高たんぱくであり、微量栄養素も乾燥大豆と比較して多く含まれていた。



■ 大豆パフ ■ 乾燥大豆





②試作

大豆パフの改善点および栄養的有効性について検討するため、煮る、蒸す、揚げる、炒める、焼く5つの調理法にて、主食4品、主菜6品、副菜2品、デザート10品の計22品の試作を行った。

主食	①キーマカレー、②ミートソーススパゲッティ、③坦々麺、④ラザニア
主菜	⑤麻婆豆腐、⑥餃子、⑦チリコンカン、⑧ロールキャベツ、⑨キッシュ、⑩とんかつ
副菜	⑪ポテトサラダ、⑫大豆梅ふりかけ
デザート	⑬おから饅頭、⑭抹茶パウンドケーキ、⑮ブラウニー、⑯チーズケーキ、⑰フロランタン、⑱ピーナッツバタークッキー、⑲ごま団子(こしあん)、⑳ごま団子(黒ごまあん)、㉑大豆ドーナツ、㉒大豆黒糖サターアングー

③大豆パフの改善

試作の結果、大豆パフを料理に加えたり、小麦粉やごま、ナッツの代用品として使用することで、たんぱく質や微量栄養素の含有量を増加させることができ、大豆パフの有効性が示された。しかし、大豆パフは水に浸すと水分を吸収し、サクサク感を残そうとしても、他の食材や調味料の水分によって大豆パフが柔らかくなり、サクサク感を活かしたい菓子への使用が難しいこと、大豆パフをそのまま使用すると大豆臭が残っており、料理の味や香りの邪魔をしてしまうことが明らかとなった。そこで、この課題点を踏まえ、不二製油株式会社は大豆パフの改良を行った。これまでの大豆パフはあられ状で水分を吸収しやすく、サクサクした食感を維持することができなかったため、材料に使用していた脱脂大豆の一部を粉末状大豆たんぱくに置き換え、形状を変更することでサクサクした食感を再現した。また、コーンフレーク状に平たくすることで水分の吸収率が少なくなり、サクサクした食感を維持することが可能となった。さらに、原材料を変えたことで脱脂大豆特有の後味に感じるえぐみが低減でき、風味を改善することができた。

(3) 成果発表

令和2年12月19日、本事業について学生が卒業研究として発表した。発表内容は、「産学連携の取り組み～大豆パフ製品化に向けて～」という題目で、大豆パフの栄養成分の分析結果、様々な調理法による試作、および改善内容を発表した。不二製油株式会社との連携事業を学生の卒業研究へ還元することができ、地域教育実践研究センターの基本方針である「学生の質保証の強化」へ繋げることができた。



第2章 令和2年度の地域連携事業

Ⅶ. 株式会社えん・コミュニケーションズとの包括的連携事業

株式会社えん・コミュニケーションズは、北九州市に位置する水産食料品製造会社であり、明太子、たらこの製造を中心として、しめ鯖、寿司ネタ、総菜等を製造している。株式会社えん・コミュニケーションズから、本学に対して新製品の共同開発について依頼があった。このことから、本学と株式会社えん・コミュニケーションズは、教育、研究、商品開発に伴う技術振興、人材交流等の分野において協力のもと地域の発展と人材の育成に寄与するため、令和2年8月3日に包括的連携協定を締結し、新製品の開発に取り組んだ。

1. 鯖および明太子を活用した製品開発事業

(1) 概要・関連SDGs

株式会社えん・コミュニケーションズでは、鯖1尾あたり、頭部、尾、内臓、中骨等、約50%が廃棄され、月間約30tが廃棄量となっている。このことから、栄養学科の学生が、同社の主力商品である鯖と明太子を活用した食品ロス軽減に繋がる一般消費者向けの新製品を考案するため、計25品のレシピを開発した。



(2) 実施内容

① コンセプトの設定

新製品を考案するにあたり、以下のとおりコンセプトを設定した。

- ・SDGsに繋がる食品ロス削減のために廃棄する部位を使用すること
- ・地域特産の材料を使用すること
- ・美味しい・健康・低価格であること
- ・工場で行可能な製造過程であること

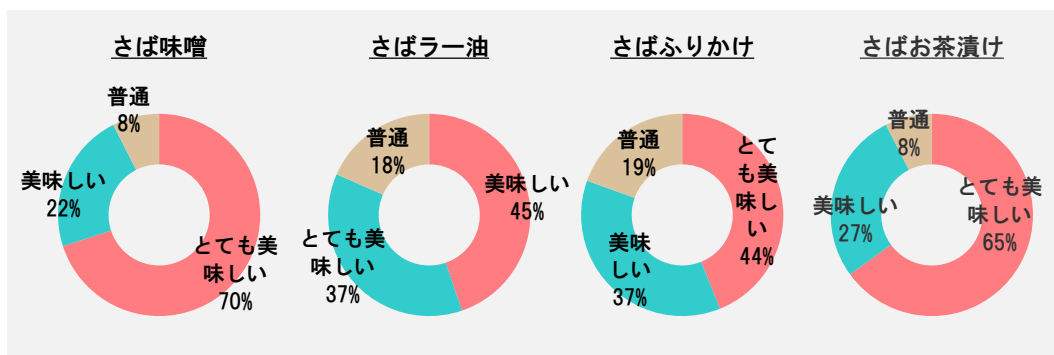
② レシピ開発

鯖については、本来廃棄される尾っぽ、尾ひれ、中落ち、骨、およびフィレを利用した22品、明太子については、明太バラ子を利用した3品のレシピを開発した。

鯖1	①サバのキッシュ、②サバまん、③サバのつみれ、④サバ春巻き、⑤サバクッキー
鯖2	①さばフレーク、②さば味噌、③ナスの田楽、④豆腐の田楽、⑤みそクッキー、⑥焼きおにぎり、⑦ポークおにぎり、⑧さばふりかけ、⑨さばお茶漬け、⑩さばウィンナー、⑪炊き込みご飯、⑫さばラー油、⑬さばチップス、⑭さばカレー、⑮さばの味噌煮、⑯さばの南蛮漬け、⑰ひれせんべい
明太子	①めんたいチーズ春巻き、②めんたいチーズシート、③明太子ピラフの素

③ 各種調査の実施

【美味しさの調査】対象者：女子学生41人



【嗜好調査】対象者：女子学生および教員20人 有意水準 $\ast p < 0.05$ (χ^2 検定)

以下のとおり、「味」に対する「風味」「食感」「大きさ」の関係性を χ^2 検定を用いて統計処理した。サバのキッシュでは、「味」に対して「風味」と「食感」に有意な関係を示した。サバまんでは、「味」に対して「風味」のみに有意な関係がみられた。めんたいチーズシートでは、「味」に対して「風味」のみに有意な関係がみられた。その他では、有意差はみられなかった。

No.	n(人数)	料理名	値		
			風味	食感	大きさ/量
1	25	サバのキッシュ	0.000 \ast	0.040 \ast	0.570
2	26	サバまん	0.012 \ast	0.992	0.986
3	28	サバ春巻き(プレーン)	0.448	0.502	0.482
4	24	サバ春巻き(カレー)	0.169	0.461	0.383
5	25	サバ春巻き(ペペロン)	0.339	0.181	0.164
6	25	サバクッキー(ココア)	0.549	0.958	0.493
7	26	サバクッキー(ごま)	0.575	0.711	0.575
8	26	めんたいチーズ春巻き	0.548		0.998
9	24	めんたいチーズシート	0.000 \ast		
10	24	明太子ピラフの素	0.110	0.434	0.998

④試食会の開催

令和2年9月16日、学生が開発したレシピの試作品を株式会社えん・コミュニケーションズの社員が試食し、試作品の課題および商品化が実現可能なレシピについて話し合った。保存性を高めるためのパッケージ等に施す工夫、サバの風味を生かすための改良、利益やコストの低減等が課題点として挙げられた。また、令和2年10月14日、課題点を踏まえて改良した試作品が完成したため、再度試食会を開催した。



(3) 成果発表

令和2年12月19日、本事業について学生が卒業研究として発表した。発表内容は、「食品ロス削減に向けた商品開発～株式会社えん・コミュニケーションズとの共同研究～」、ならびに「SDGsに繋がる一般消費者向け商品の開発～株式会社えん・コミュニケーションズとの共同開発～」という題目で、鯖および明太子の廃棄部分を用いたレシピ開発、調査結果、改良点等を発表した。株式会社えん・コミュニケーションズとの連携事業を学生の卒業研究へ還元することができ、地域教育実践研究センターの基本方針である「学生の質保証の強化」へ繋げることができた。

Ⅷ. インターンシップ推進事業

本学のインターンシップについては、文部科学省・厚生労働省・経済産業省が提言している「インターンシップ推進に当たっての基本的考え方」に則り、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」として、地元企業を中心としたインターンシップ推進事業に積極的に取り組むことで、学生のインターンシップへの参加を促進している。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、夏季インターンシップについては、北九州市役所のインターンシップを除き参加を見合わせた。春季インターンシップについては、今後のキャリア形成および就職活動への影響を考慮し、学生に対して感染防止対策の徹底を促したうえで、学生を派遣した。また、上述の「インターンシップ推進に当たっての基本的考え方」に関して、一般のインターンシップを取り巻く状況の変化等を踏まえ取りまとめられた留意点を考慮し、より教育効果の高いインターンシップの推進・普及を実施するため、大学2年生より正規の教育課程にインターンシップ科目、「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」を配置し、学生を派遣した。

1. インターンシップの種類

文系インターンシップ	北九州市内の学生に対して、職業意識の醸成や勉強意欲の向上、および市内企業への就職促進を図るため、市内の大学、短期大学、企業、北九州商工会議所が連携・協力し、文系学生を対象に就労体験の場を提供する事業である。
課題解決型インターンシップ	北九州商工会議所が実施主体となり、北九州市内の学生に社会的基礎力を修得させるため、地域産業や企業等の課題を題材として実施する課題解決型の事業である。
(一社)九州インターンシップ推進協議会 通常型インターンシップ	九州全体を見据えたインターンシップの推進と次代を担う若手の人材を育成するため、九州経済産業局や地元経済界、主要大学による産学官が協力して実施する事業である。
山口県インターンシップ推進協議会インターンシップ	山口県の経済・社会の活性化に貢献するため、県内の高等教育機関等、事業所、経済団体、行政機関が相互に連携・協力し、企業等へのインターンシップを通じて、高い職業意識の育成を推進する事業である。
北九州市インターンシップ	職業意識の向上、人材育成、および市政に対する理解を深めるため、市と協定を締結した教育機関の学生を対象とした市役所の公務に関する職業体験事業である。

地域教育実践研究センター

地域教育実践研究センターでは、各インターンシップの夏季および春季の参加者を募集し、参加希望者の応募手続きを行っている。

文系インターンシップ

課題解決型インターンシップ

(一社)九州インターンシップ推進協議会 短期仕事理解型インターンシップ

山口県インターンシップ推進協議会 インターンシップ

北九州市インターンシップ

インターンシップを通じて学べること

- 業務内容や企業について深く知ることができる。
- 今後の業界・職種・企業選びやキャリアプラン設計の材料となる。
- 社会人としての意識、働くことへの意識が身につく。
- 実務の業務スキルが得られる。

2. インターンシップ参加スケジュール

インターンシップに参加する学生に対して、本学独自の事前研修を行い、社会に必要なスキルを事前に身につけたうえで企業へ派遣するフォロー体制を整えている。また、インターンシップ終了後は、職員による事後面談を行い、インターンシップ時の評価をフィードバックし、その後の就職活動に繋げている。インターンシップ参加のスケジュールは、以下のとおりである。

(1) 夏季インターンシップ

5月

参加学生の募集開始

チラシ掲示による案内、キャリアデザイン科目等での説明
必要書類の提出

6月

企業と学生のマッチングによる受け入れ先決定

7月

学内事前研修

インターンシップの意義やマナーについて学内で研修

学外事前研修

※(一社)九州インターンシップ推進協議会に限る
主催側によるインターンシップの意義、マナーについて他大学参加者と共に研修

8~9月

インターンシップ

9月

学外事後研修

※(一社)九州インターンシップ推進協議会に限る

主催者側によるインターンシップの振り返り

10月

事後面談

学内担当者とインターンシップの評価のフィードバックと振り返り面談



(2) 春季インターンシップ

11月

参加学生の募集開始

チラシ掲示による案内、キャリアデザイン科目等での説明
必要書類の提出

12月

企業と学生のマッチングによる受け入れ先決定

1月

学内事前研修

インターンシップの意義やマナーについて学内で研修

学外事前研修

※(一社)九州インターンシップ推進協議会に限る
主催側によるインターンシップの意義、マナーについて他大学参加者と共に研修

2~3月

インターンシップ

3月

学外事後研修

※(一社)九州インターンシップ推進協議会に限る

主催者側によるインターンシップの振り返り

4月

事後面談

学内担当者とインターンシップの評価のフィードバックと振り返り面談



第2章 令和2年度の地域連携事業

3. 各インターンシップの実績

(1) 文系インターンシップ

① 事業概要

参加大学・人数	<p>【夏季】計:延べ38人 九州女子大学:0人 北九州市立大学:24人 九州国際大学:4人 梅光学院大学:7人 日本経済大学:3人</p> <p>【春季】計:延べ180人 九州女子大学:54人 九州共立大学:5人 北九州市立大学:8人 九州国際大学:18人 西南女学院大学:19人 西日本工業大学:46人 梅光学院大学:17人 九州産業大学:2人 日本経済大学:4人 筑紫女学園大学:2人 東海学園大学:3人 KCS北九州情報専門学校:2人</p>
企業数	参加企業数:夏季53社/春季66社 受入企業数:夏季22社/春季43社
実施期間	夏季:令和2年8月～9月 春季:令和3年2月～3月

② 本学の実施状況

	受け入れ先	日程	日数	人数
夏季	※新型コロナウイルス感染症の影響により派遣を自粛			0
	計(延べ人数)			0
春季	(株)不動産中央情報センター【オンライン】	2/4, 2/20	1日	3
	(株)グローバルマーケット【オンライン】	2/5, 2/13	1日	2
	小倉運送(株)	2/9	1日	1
	(株)エイブル 九州・広島事業部	2/11	1日	1
	日本生命保険相互会社【オンライン】	2/13	1日	2
	(株)西日本シティ銀行 北九州総本部	2/16, 17	2日	5
	(株)さわやか倶楽部【オンライン】	2/16, 3/4	1日	2
	(株)アンサー倶楽部	2/17～19	3日	2
	明治安田生命保険相互会社【オンライン】	2/17, 2/26	1日	4
	大英産業(株)【オンライン】	2/18	1日	1
	不二貿易(株)	2/19	1日	1
	北九州ダイハツ販売(株)	2/19, 3/5, 3/12	1日	4
	ネットトヨタ北九州(株)【オンライン】	2/20, 2/25	1日	2
	(株)アダチ	2/24, 2/25	1日	4
	(株)ダイナリィ	2/24, 26	2日	1
	(株)西日本メタル	2/24～26	3日	1
	学校法人国際学園	2/26	1日	1
	北九州市立玄海青年の家	2/26～28	3日	1
	アイム電機工業(株)	3/1～5	5日	1
	(株)中園	3/1～5	5日	1
(株)木輪	3月上旬～中旬	3日	7	
(株)芳野ケアサポート	3月上旬～下旬	5日	2	
アイギスセキュリティ合同会社	3/22～24	3日	2	
中川食品(株)	3/23～25	3日	3	
計(延べ人数)				54
合計(延べ人数)				54

(2) 課題解決型インターンシップ

①事業概要

参加大学・人数	計:9人 九州女子大学:3人 北九州市立大学:6人
実施期間	令和2年8月27日～9月末

②実施内容

プログラム	<p>①オリエンテーション(趣旨説明、自己紹介、グループ分け等)</p> <p>②調査対象先企業の紹介</p> <p>③企業へのヒアリング 3者(企業・学生・北九州商工会議所)がオンラインで情報交換を行う</p> <p>④グループワーク 各グループが個別にオンライン型インターンシップのプログラム開発を行う</p> <p>⑤全体ミーティング(参加学生が全員参加) それぞれのグループ活動の進捗確認や情報交換等を行う</p> <p>⑥発表資料の確認(各グループ・北九州商工会議所)</p> <p>⑦報告発表用の動画撮影</p> <p>■調査協力企業 ㈱あいはら/㈱ナフコ/㈱不動産中央情報センター</p>
-------	---

(3) (一社)九州インターンシップ推進協議会 通常型インターンシップ

①本学の実施状況

	受け入れ先	日程	日数	人数
夏季	※新型コロナウイルス感染症の影響により派遣を自粛			0
	計			0
春季	(一般)カンボジア地雷撤去キャンペーン	2/1, 2, 15, 16, 17	5日	1
	㈱医侍会	2/16～20	5日	1
	㈱ネオ倶楽部	2/25, 3/2, 9, 11, 12	5日	1
	㈱スタジオアリス	3/9, 10, 13, 16, 17, 20, 21	7日	1
計			4	
合計			4	

(4) 山口県インターンシップ推進協議会インターンシップ

①本学の実施状況

	受け入れ先	日程	日数	人数
夏季	※新型コロナウイルス感染症の影響により派遣を自粛			0
	計			0
春季	山口市民活動支援センター さぼらんで	2/15, 16, 18, 19, 20	5日	1
計			1	
合計			1	

(5) 北九州市インターンシップ

①本学の実施状況

	受け入れ先	日程	日数	人数
	北九州市立中央図書館	8/18～22	5日	1
合計			1	

第2章 令和2年度の地域連携事業

IX. 学生ボランティア事業

本学は、幼児教育者や学校教員等を目指す学生に現場経験を積ませるため、グリーンティーチャー等として、幼稚園・保育所、小学校、特別支援学校等に数多くの学生を派遣している。また、ボランティアとして、病院施設、図書館等にも学生を派遣している。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、学生の派遣を中止した。

【ボランティア事業の種類】

九州女子大学	グリーンティーチャー	取得免許毎の学生の実践力向上を図る事業について、「グリーンティーチャー」と命名し、グリーンとは、「緑の、未熟な、未経験の、元気のいい、若々しい、新鮮な」という意味を含んでいる。教育現場等において、園児や児童の指導補助・学習支援等を通し、学生の実践力を身につける本学独自の取り組み。
	病院・施設ボランティア	病院(病児保育)・施設(療育施設)において、多様な保育環境に対応できる保育者を育成する取り組み。
	図書館ボランティア	図書館において、図書館司書資格に必要な知識と技術を実務経験を通して身につけ、現場で図書館司書の役割等を理解する取り組み。
九州女子短期大学	幼稚園・保育所・施設ボランティア	幼稚園・保育所・施設の行事等の多様な活動において、役割や仕事を実践・思考することで、職業人として必要な力を育成する取り組み。
	キャラバン隊	九州女子短期大学の実践型教育として、幼稚園・保育所・施設・学校等に出向き、模擬保育や模擬授業を展開する取り組み。

X. その他の地域連携諸事業

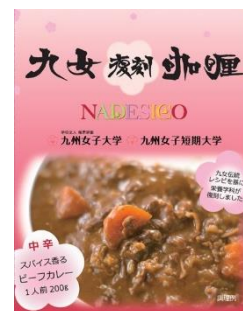
1. 北九州市民カレッジにおける公開講座

北九州市民カレッジは、北九州市(生涯学習総合センター)が主催で、市民に対して多様な学習ニーズに対応した生涯学習機会を提供し、人材育成を図ることを目的に運営している講座群である。

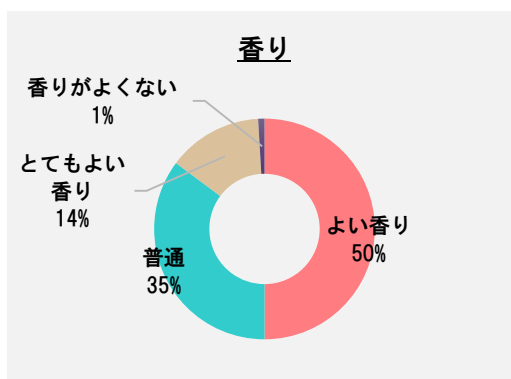
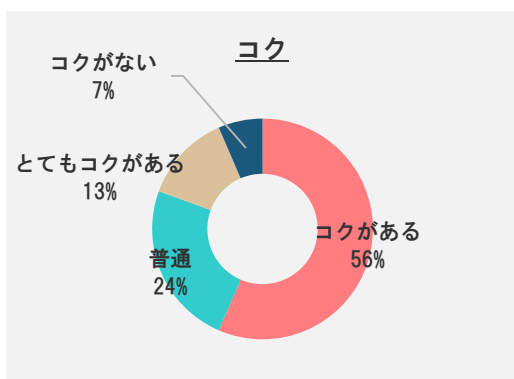
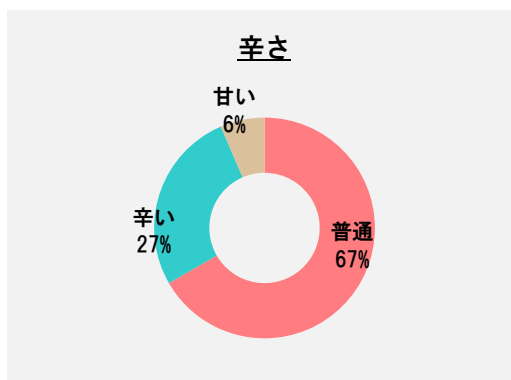
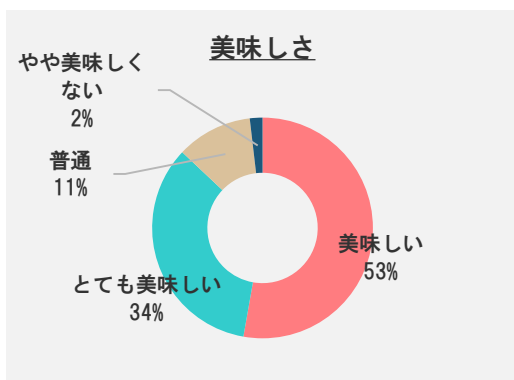
令和2年度は、人間発達学科の荻原教授による国宝「源氏物語絵巻」を読み解きながら、源氏物語を学ぶ全5回の講座を開講した。また、「メディアと私たちのよりよい関係づくり」をテーマとした全7回の大学連携リレー講座において、人間発達学科の今津特任准教授による「アフターコロナとスマホ社会の中での子どもの課題について」をテーマとした講座を開講した。

2. 大学オリジナルレトルトカレーの販売

本学に伝わるカレーのレシピを栄養学科が復刻し、大学行事において参加者へ提供している。本カレーは、グルタミン酸、イノシン酸、グアニル酸の3成分をバランスよく配合し、スパイス香る独特のビーフカレーに仕上げ、多くの方から好評を得ている。本学の教育や取り組みを、広く地域へ伝えるため、株式会社はかた本舗と産学連携し、栄養学科監修のもと、本カレーのレトルト商品を開発した。商品名は、「九女復刻咖喱」とし、パッケージの題字は人間発達学科の書道担当教員である古木准教授が書く等、教育の特色を随所に表している。九女復刻咖喱は、令和2年6月から、学内売店、博多阪急、およびAmazon等で販売している。



■大学オリジナルレトルトカレー試食アンケート結果(n=108)



感想

- 野菜のゴロゴロ感があり、牛肉も沢山入っており、まさに家庭で作るカレーでした。
- 後味がスッキリして食べやすかったです。
- 他のレトルトカレーと比べると格段に美味しいです。
- 手土産やお中元・お歳暮等に使ってみたいです。
- パッケージがおしゃれでした。

3. 近隣他大学との連携

北九州市内の大学等(本学、九州共立大学、北九州市立大学、九州国際大学、西南女学院大学、九州栄養福祉大学、九州工業大学、梅光学院大学、北九州工業高等専門学校)によるキャリア連携会議が、本年度新たに設置された。

本会議(WEB開催)において、定期的に新型コロナウイルス感染症に対する各大学の就職活動に関する対応、授業対応、企業への対応、インターシップの対応、および就職内定状況等について情報交換した。

第3章 学外実習・介護等体験および教員免許状更新講習等

I. 令和2年度 学外実習・介護等体験の実績

教育実習	保育実習	臨地実習	介護等体験	臨床実習
<ul style="list-style-type: none"> ・教員免許状の取得に際して、各学校における観察・参加・実習という教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに、課題を自覚する機会とすべく実習を行うもの。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士資格取得に際して、保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解し、観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深めるために保育所、児童福祉施設等において実習を行うもの。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士免許取得に際して、実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識および技能を修得させることを目的として実習を行うもの。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校又は中学校の教員免許状を取得しようとする者を対象に、教員が個人の尊厳および社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性に鑑み、教員の資質向上および学校教育の一層の充実を図る観点から、特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間の体験を行うもの。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学んだ知識・技術をもとに、医療・介護・福祉の現場における活動の見学や援助を通して、養護教諭としての必要なケアの視点や能力を養う。また、実習体験を通して個人を尊重した対象者とのかかわりの基本と健康や健康障害、発達段階や発達課題に対する支援能力を養うために実習を行うもの。

【九州女子大学】

(人数)

実習名	学科・専攻名	学校種別等	1年	2年	3年	4年
教育実習	人間生活学科	中学校 高等学校	/			12
	栄養学科	小学校				9
	人間発達学科 人間発達学専攻	幼稚園	/		44	51
		小学校	/		47	8
	人間発達学科 人間基礎学専攻	特別支援学校	/			34
保育実習	人間発達学科 人間発達学専攻	中学校 高等学校	/			18
		保育所	/	48	59	/
臨地実習	栄養学科	児童養護施設等	/			55
		福祉施設・保健所	/		91	/
		小学校	/		91	
病院	/		0			
介護等体験	人間生活学科	特別支援学校 社会福祉施設	/		0	0
	人間発達学科 人間発達学専攻		/	0	0	0
	人間発達学科 人間基礎学専攻		/	0	/	/

【九州女子短期大学】

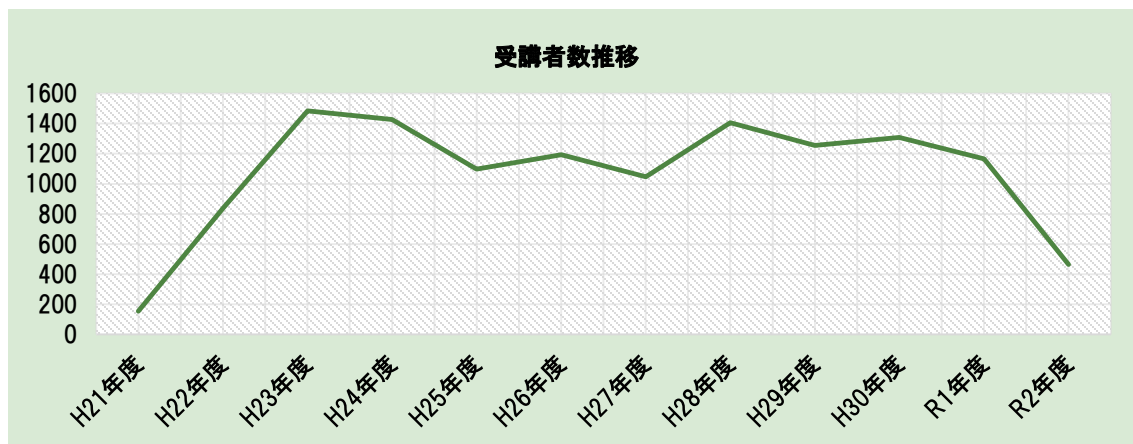
(人数)

実習名	学科・課程名	学校種別等	1年	2年
教育実習	子ども健康学科 幼稚園教諭養成課程	幼稚園	/	57
	子ども健康学科 養護教諭養成課程	小学校・中学校 高等学校		53
	専攻科 子ども健康学専攻	小学校・中学校 高等学校		14
保育実習	子ども健康学科 幼稚園教諭養成課程	保育所	41	67
		児童養護施設等	17	13
	子ども健康学科 養護教諭養成課程	保育所	28	30
		児童養護施設等	9	12
臨床実習	子ども健康学科 養護教諭養成課程	病院・福祉施設	5	53

II. 教員免許状更新講習の受講者推移(平成21年度～令和2年度)

教員免許状更新講習とは、その時々で求められる教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身につけることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指すため、現職教員、教員採用内定者、教員経験者等を対象に平成21年4月1日から導入されたものである。本学においては、平成21年度から教員免許状更新講習を実施しており、講座数および受講者数は以下のとおりである。

	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
講座数	15	16	20	20	17	17	19	21	19	20	18	17
受講者数	155	838	1,484	1,426	1,098	1,193	1,046	1,406	1,255	1,308	1,165	464



III. 令和3年度 教員免許状更新講習の開設予定講座

日程	領域	講座名	講師名	定員数	講座名	講師名	定員数
8/23	必修	①教育の最新事情(幼・小)	黒田・鎌田・村上	70	②教育の最新事情(中・高・養)	黒田・鎌田・村上	45
8/24	選択必修	③学校を巡る近年状況変化、危機管理上の課題(幼・小)	宮本・大江	70	④学校を巡る近年状況変化、危機管理上の課題(中・高・特支)	神代・宮本	45
8/25	選択	⑤宮崎アニメを《読み解く》	河原木	40	⑥「生きる力」を育む表現・造形遊び	谷口	22
		⑦小児生活習慣病を予防する日本食の力	巴・塩田・白石・山本・新富	50	⑧小学校英語教材としてのマザーグースと絵本の活用術	中島・永末	30
		⑨健康教育の潮流とSDGs(持続可能な開発目標)	細井	50			
8/26	選択	⑩漢字のはなし	古木	20	⑪文系でまなぶプログラミング入門	宮本	35
		⑫発達障害児の理解と支援	堀江・石黒・阪木	48	⑬絵本が育む子どもの心・コロナ禍の中での絵本の力とは一	今津	50
8/27	選択	⑭英語コミュニケーションの基礎	タカール	50	⑮表現講座	青山・佐藤	20
		⑯コンピュータを使わないコンピュータ科学入門	宮本・福島	35			

参考資料

I. 地域教育実践研究センターの各種委員会構成員

地域教育実践研究センター運営委員会		地域教育実践研究センター外部評価委員会	
巴 美樹	地域教育実践研究センター 所長 学生部長 家政学部栄養学科 教授	巴 美樹	学内委員 地域教育実践研究センター 所長
澤田小百合	地域教育実践研究センター 副所長 事務局長	澤田小百合	学内委員 地域教育実践研究センター 副所長
濱寄 朋子	教務部長 家政学部栄養学科 教授	谷岡 夕貴	学外委員 芦屋町 地方創生推進係 主査
西田真紀子	家政学部人間生活学科 教授	木下 颯太	学外委員 水巻町役場 総務課庶務係 主事
崎山 栄子	家政学部栄養学科 特任教授	實松 秀男	学外委員 北九州商工会議所 産業振興部 部長
蒲原 路明	人間科学部人間発達学科 特任教授	成重 純一	学外委員 北九州市立折尾西小学校 校長
樋渡 由貴	人間科学部人間発達学科 助教	大塚 友江	学外委員 北九州市小倉社会事業協会 理事
細井 陽子	共通教育機構 講師	桑原 正樹	学外委員 協同組合折尾商連 事務局長
安東 綾子	子ども健康学科 講師	西田真紀子	学内委員 家政学部人間生活学科 教授
鍋田 智広	人間科学部人間発達学科 准教授	蒲原 路明	学内委員 人間科学部人間発達学科 特任教授
十河 功一	教務・入試課 課長	細井 陽子	学内委員 共通教育機構 講師
松田裕次郎	地域教育実践研究センター 主事	安東 綾子	学内委員 子ども健康学科 講師

II. 地域教育実践研究センターの運営委員会等年間実績

月	学内委員会等		外部との会議等	
4月				
5月			27日	第1回水巻町との連携会議
6月			3日 12日	第1回キャリア連携会議 第1回折尾二三会との連携会議
7月	22日	第1回地域教育実践研究センター運営委員会	21日 27日	第2回折尾二三会との連携会議 第2回キャリア連携会議
8月			5日	第1回北九州市との連携会議
9月			16日 18日 30日	第3回キャリア連携会議 第1回芦屋町との連携会議 第2回水巻町との連携会議
10月	1日	第2回地域教育実践研究センター運営委員会	16日	第2回北九州市との連携会議
11月	26日	第1回地域教育実践研究センター外部評価委員会		
12月	3日	第3回地域教育実践研究センター運営委員会	18日	第4回キャリア連携会議
1月				
2月			12日	第5回キャリア連携会議
3月	25日	第4回地域教育実践研究センター運営委員会		

Ⅲ. 地域教育実践研究センター外部評価委員会報告

令和2年度は、第1回地域教育実践研究センター外部評価委員会を令和2年11月26日に開催し、令和元年度の連携事業の実績を報告し、令和2年度の連携事業の進捗を共有・確認した。また、毎年3月に開催していた第2回の本委員会は、新型コロナウイルスの影響により開催を中止したが、アンケート評価を実施し、以下のとおり学外委員から意見を徴した。

学外委員	意見	
芦屋町	第1回委員会 (R2. 11. 26開催)	大学との連携は、キャラバン隊の模擬保育は2園での実施予定であり、高齢者向けの講座については、地域交流サロンおよび祖父母学級における公開講座を予定している。コロナ対策については、徹底して会議の際もマスク着用のうえ換気をしている。
	評価アンケート (R3. 3. 19回答)	保育園におけるキャラバン隊の模擬保育は、感染対策を行いながら、最近の流行曲を取り入れた体操等のプログラムで子どもたちはもちろん、職員も満足している。コロナ禍のため、ふれあいが出来なかったのが残念であった。
水巻町	第1回委員会 (R2. 11. 26開催)	昨年度貴学と連携した事業は、町民からも好評を得ており、特に学生が講師を務めたバッククッキング講座は第2回の開講について要望が出ている。コロナについては、緊急事態宣言後、外部での業務はできなかったが徐々に緩和している。水巻町の大規模なイベントであるコスモス祭りが中止となり、町民の方と接する機会が少なくなっている。
	評価アンケート (R3. 3. 19回答)	新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けることとなったが、指定避難所レイアウトの作成については、概ね作成が完了しているものと認識している。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和2年度は広く本事業を周知することができず、その点が課題として残ったと感じている。
北九州商工会議所	第1回委員会 (R2. 11. 26開催)	コロナ禍のインターンシップについては、学生・企業に万全の対策を依頼し、可能な範囲で実施している。企業の採用活動に関しては、序盤の選考はリモートで実施し、最終選考では対面で面接する等、通常と違う動きとなっている。この状況下において、受け身で何も動かない学生と、自ら考えて動く学生で2極化している。大人のアドバイスが必要なのではと感じている。
	評価アンケート (R3. 3. 19回答)	課題解決型インターンシップでは貴校の学生3名とも積極的に取り組む姿勢が見られ、協力企業からの評価は概ね良く、研修を通じて大きな成長が見られた。
北九州市立小学校	第1回委員会 (R2. 11. 26開催)	グリーンティーチャーは、学校現場と大学で相互に効果のある事業である。学生もとても意欲的で、仕事を見つけ、求めてくる学生に感心している。新型コロナウイルス感染症については、教育活動が制限されているが、現在は徐々に緩和され、後期から外での鬼ごっこはマスクをすることを条件に解禁している。プリントも教師が配っていたが今は手洗いで子どもたちが配っている。マスク、手洗い、および密着しないことを徹底している。
北九州市 小倉社会事業協会	第1回委員会 (R2. 11. 26開催)	北九州市の保育に関する新型コロナウイルス感染症の現状は、保護者の園内の立入を禁止し、玄関先で受け入れをしている。子どもの荷物も保育士が整理する等、保育士の仕事が増えている。また、低年齢でマスクができないため、手洗いを徹底し、密を避け、少人数で部屋を分けて保育している。実習生も厳しい状況であり、園見学も園舎のみの見学となっている。
	評価アンケート (R3. 3. 19回答)	今後も、新型コロナウイルス感染症の対策をすることが最優先されると思われる。しかし、職業体験は大変重要なことであり、特に保育士不足等が現在問題とされる現状があるため、ボランティア事業等の展開をさらに考慮していただきたい。
協同組合折尾商連	評価アンケート (R3. 3. 19回答)	折尾地区最大の催し「折尾まつり」は、大学の協力をいただきながら、平成2年に第1回を開催し、令和元年に節目となった「第30回折尾まつり」を実施できたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、令和2年、令和3年と2年連続中止となった。祭りの実行委員会では、「折尾まつり」を継続発展させるため、過去の祭りを知り新たな祭りの立上げが必要と考え、令和3年度を充電期間ととらえ、新たな取り組みを模索する1年としたい。

IV. 協定先一覧

本学は以下のとおり、自治体、企業、大学、および団体等と協定を締結している。これらの協定に基づき、外部組織と様々な連携事業に取り組んでいる。

協定先	協定名	締結日
北九州市	北九州市放課後児童クラブの振興に関する連携協定	平成25年9月1日
芦屋町	本学と芦屋町との包括的地域連携に関する協定	平成28年3月29日
北九州商工会議所	本学と北九州商工会議所との連携に関する協定	平成28年6月7日
水巻町	本学と水巻町との包括的地域連携に関する協定	平成31年4月17日
青森県立保健大学	青森県立保健大学と九州女子大学におけるベトナム国ナムディン看護大学及び国立栄養研究所との交流活動に係る連携・協力に関する協定	令和元年7月31日
味の素株式会社九州支社	本学と味の素株式会社の包括的連携に関する協定	令和2年3月3日
不二製油株式会社	本学と不二製油株式会社の包括的連携に関する協定	令和2年4月1日
株式会社えん・コミュニケーションズ	本学と株式会社えん・コミュニケーションズの包括的連携に関する協定	令和2年8月3日
折尾二三会	本学と折尾二三会の包括的連携に関する協定	令和2年8月3日

V. 地域教育事業一覧(平成27年度～令和元年度)

本学の地域教育事業の実態を分析するため、各学科・専攻等で地域に学生を派遣している事業について、カリキュラム内とカリキュラム外の派遣事業、および派遣人数等を以下のとおり調査してきた。

事業内容		H27年度	H28年度	H29年度		H30年度		R1年度	
		実数	実数	実数	延べ数	実数	延べ数	実数	延べ数
人間生活学科	カリキュラム内(学外実習) 教育実習・介護等体験	53	70	59	59	51	51	40	40
	カリキュラム内(一般科目) 地域生活学演習	90	136	205	205	277	277	243	243
	カリキュラム外 学童クラブ等	102	126	134	499	102	625	160	891
	計	245	332	398	763	430	953	443	1,174
栄養学科	カリキュラム内(学外実習) 栄養教育実習・臨地実習等	346	240	257	257	247	247	251	251
	カリキュラム外 水巻町との連携事業	0	42	28	39	15	21	40	40
	計	346	282	285	296	262	268	291	291
人間発達学科 (人間発達学専攻)	カリキュラム内(学外実習) 初等教育実習・保育所実習 介護等体験等	613	574	553	553	464	464	581	581
	カリキュラム内(一般科目) スキルアップ講座 卒業研究演習等	834	696	536	864	467	773	430	736
	カリキュラム外 グリーンティーチャー 学習ボランティア等	500	475	407	3,886	434	4,302	402	3,429
	計	1,947	1,745	1,496	5,303	1,365	5,539	1,413	4,746
人間発達学科 (人間基礎学専攻)	カリキュラム内(学外実習) 中等教育実習・介護等体験等	87	95	77	77	74	74	69	69
	カリキュラム内(一般科目) 卒業研究演習・図書館概論等	330	128	120	126	136	136	153	135
	カリキュラム外 図書館ボランティア 書道教室	58	83	208	424	212	603	167	478
	計	475	306	405	627	422	813	389	682
共通教育機構	カリキュラム内 日本事情	20	10	20	20	20	20	10	10
	カリキュラム外 日本文化研修	71	80	72	72	47	47	5	9
	計	91	90	92	92	67	67	15	19
子ども健康学科	カリキュラム内(学外実習) 教育実習(幼稚園) 養護実習・保育所実習等	885	796	826	1,034	729	937	677	849
	カリキュラム外 キャラバン隊 ボランティア活動等	330	347	336	482	305	474	261	387
	計	1,215	1,143	1,162	1,516	1,034	1,411	938	1,236
子ども健康学専攻	カリキュラム内(学外実習) 養護特別実習	27	17	28	28	16	16	22	22
	カリキュラム外 スクールヘルパー	10	10	25	150	3	3	14	14
	計	37	27	53	178	19	19	36	36
合計		4,356	3,925	3,891	8,775	3,599	9,070	3,525	8,184

VI. 講師派遣実績一覧

No.	所属	派遣者	派遣内容	派遣日	依頼組織
1	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	令和2年度後期「北九州市民カレッジ」	R2. 10. 27	北九州市立生涯学習 総合センター
2	人間科学部 人間発達学科	矢崎 美香	令和2年度「目録システム書誌作成研修 フォローアップ研修」	R2. 12. 18	大学共同利用機関法 人 情報、システム 研究機構
3	家政学部 栄養学科	巴 美樹	第3回CareTEX福岡専門セミナー	R3. 2. 25	プティックス (株)
4	人間科学部 人間発達学科	城 佳世	コモクラシック講座	R3. 1. 24	公益財団法人 飯塚 市教育文化振興事業 団
5	子ども健康学科	矢野 洋子	「職員人権保育研修会4」 (2部制)	R2. 12. 14	一般社団法人 福岡 市保健協会
6	人間科学部 人間発達学科	今津 尚子	令和2年度「生涯学習ボランティア養成 講座」	R3. 2. 15	北九州市民文化ス ポーツ局八幡西生涯 学習総合センター
7	子ども健康学科	菊池由紀子	子育て応援サロン	R3. 3. 6	社会福祉法人 粕屋 町社会福祉協議会
8	家政学部 栄養学科	三浦公志郎	管理栄養士のための基礎医学講座	R2. 8. 25、R3. 2. 20	(株)日本医療企画九州 支社
9	人間科学部 人間発達学科	萩原 桂子	北九州市立年長者研修大学校穴生学舎 研修	R3. 2. 2	北九州市立年長者研 修大学校穴生校舎
10	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	令和2年度社会教育主事講座 [A]	R2. 7. 29	国立教育政策研究所
11	子ども健康学科	矢野 洋子	令和2年度幼稚園教育理解推進都道府県 協議会 (保育技術協議会)	R2. 8. 25	福岡県教育委員会
12	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	令和2年度若松まちづくり協議会会長・ 館長合同研修会	R2. 9. 18	若松区コミュニティ 支援課
13	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	令和2年度放課後児童支援員認定資格研 修	R2. 9. 21、R2. 11. 8 R2. 11. 15	長崎県児童保育連絡 協議会
14	子ども健康学科	松本 禎明	令和2年度福岡県保育士等キャリアアッ プ研修	R2. 9. 6、R2. 10. 17 R2. 11. 23、R2. 11. 29 R2. 12. 27	(公財)総合健康推進 財団
15	人間科学部 人間発達学科	矢崎 美香	利用者カルテの導入事例およびその効 果等について	R2. 9. 4	(株)クレオテック
16	子ども健康学科	宮嶋 晴子	令和2年度後期「北九州市民カレッジ」	R2. 11. 30、R3. 1. 18 R3. 1. 25、R3. 2. 8	北九州市立生涯学習 総合センター
17	人間科学部 人間発達学科	矢崎 美香	第22回図書館総合フォーラム	R2. 11. 5	国立情報学研究所
18	家政学部 栄養学科	巴 美樹	公開講演会	R2. 11. 14	不二たん白質研究振 興財団
19	家政学部 栄養学科	三浦公志郎	NOUJI学園2期生向け講座	R2. 7. 19	北九州市立総合農事 センター

VII. 行政の審議会等委員委嘱実績一覧

No.	所属	氏名	委嘱内容	就任期間	依頼組織
1	人間科学部 人間発達学科	佐方はるみ	優れた教育活動等実践教職員等選考委員会	R2. 7. 3	北九州市教育委員会
2	子ども健康学科	矢野 洋子	北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会委員	R2. 4. 1～R4. 3. 31	北九州市
3	人間科学部 人間発達学科	佐方はるみ	北九州市迷惑行為防止推進協議会委員	R2. 7. 1～R4. 6. 30	北九州市
4	家政学部 栄養学科	濱寄 朋子	北九州市口腔保健推進会議委員	R2. 8～R5. 3. 31	北九州市
5	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	北九州市SDGs協議会委員	R2. 8. 3～R4. 7. 31	北九州市
6	家政学部 栄養学科	巴 美樹	芦屋町ブランド金賞選定審査会	R2. 8. 6～R4. 3. 31	芦屋町
7	家政学部 人間生活学科	田中由美子	2020北九州SDGs未来都市アワードの実施に係る選考委員	承諾日 R3. 3. 31	北九州市
8	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	住民参画推進会議委員	H29. 8. 1～R6. 9. 29	芦屋町
9	人間科学部 人間発達学科	荻原 桂子	令和2年度福岡県文化賞選考委員会委員	R2. 4. 1～R3. 3. 31	福岡県
10	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	北九州市小中一貫・連携教育検討会議委員	R2. 10. 23～R4. 3. 31	北九州市教育委員会
11	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	北九州市社会福祉協議会評議員委員	H30. 3. 14～R3. 6	北九州市
12	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	北九州市立美術館協議会委員	H31. 1. 1～R2. 12. 31	北九州市立美術館
13	家政学部 人間生活学科	西田真紀子	北九州市消費生活審議会委員	H31. 4. 1～R3. 3. 31	北九州市
14	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	東アジア文化都市2020北九州実行委員会委員	H31. 3. 27～R3. 5	福岡県
15	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	第7期北九州市人権施策審議会委員	R1. 7下旬～R3. 7	北九州市
16	家政学部 栄養学科	巴 美樹	北九州市保健所運営協議会委員	R1. 7. 1～R3. 6. 30	北九州市
17	家政学部 栄養学科	濱寄 朋子	北九州市国民健康保険運営協議会委員	R1. 9. 1～R4. 8. 31	北九州市
18	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	福岡県総合計画審議会委員	R1. 9～R4. 9	福岡県
19	人間科学部 人間発達学科	矢崎 美香	北九州市子ども読書活動推進会議第Ⅲ期委員	R1. 8. 4～R3. 7. 31	北九州市教育委員会
20	人間科学部 人間発達学科	村上 太郎	北九州市子ども・子育て会議委員	R1. 7. 16～R3. 7. 15	北九州市
21	家政学部 人間生活学科	田中由美子	広島県消費生活審議会委員	R1. 10. 16～R3. 10. 15	広島県
22	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	ムーブ運営協議会委員	R1. 12. 14～R3. 12. 13	北九州市
23	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	福岡県社会教育委員及び福岡県教育振興審議会委員	R2. 1～R3. 12	福岡県教育委員会
24	家政学部 栄養学科	巴 美樹	北九州市食品衛生懇話会会員委員	R2. 4. 1～R4. 3. 31	北九州市
25	人間科学部 人間発達学科	黒田 耕司	水巻町子ども・子育て会議委員	R2. 4. 1～R3. 12. 31	水巻町

編集後記

本誌は、令和2年度に九州女子大学・九州女子短期大学、および地域教育実践研究センターで実施した地域連携事業を皆様にご報告するため、発行いたしました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、計画していた事業を中止せざるを得ない状況となりましたが、事業によっては、実施時期の見直し、規模の縮小、遠隔等に対応をすることで取り組んでまいりました。

特に本年度は、産業界との連携事業を強化することができ、今まで以上に学生の研究活動に反映することができました。また、組織的に連携事業の客観性を担保しつつ、一層の改善に資するため、外部評価委員会、およびアンケート調査を実施することで、外部の組織、地域の方々のご意見等を頂戴することで自己点検・評価活動へ繋げました。

本誌を契機として、皆様と新たな連携事業を実施できることを期待するとともに、本学の地域連携活動、および地域貢献活動のさらなる発展を目指してまいります。

地域教育実践研究センター 所長 巴 美樹

令和2年度 地域連携事業報告書

発行：令和3年3月31日

編集：学校法人福原学園 九州女子大学・九州女子短期大学
地域教育実践研究センター

〒807-8586 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1
Tel：093-693-3134 Fax：093-603-6453
E-mail：chiiki-c@fains.jp

